

キャッチャーの仕事

米屋 崇（春秋会）

最近暑さが影を潜める一方、大雨の降る嫌な日々が続いておりますが（8月末日現在）皆様いかにお過ごしでしょうか。さて、つい先日まではオリンピックや甲子園、そして現在ではプロ野球更にはパテント杯に於きまして野球の熱き戦いが繰り広げられています。そして、マスコミでは試合の中での良いピッチングやバッティング、又は野手のファインプレーに焦点があてられ報道されています。しかし、キャッチャーのプレーに焦点があてられ報道されることはなかなかありません。そこで、ここではあまり知られていない、私の長年野球で守ってきた守備位置であるキャッチャーの仕事についてお話したいと思います。尚、ここから先のお話はかなりマニアックなものであるため、野球に興味のない方はここから先を読み飛ばして頂く事をお奨めします。

仕事その1 配球を考える

キャッチャーは守備についていた時には、とにかくバッターにいかに関心のバッチャーをさせないかを考えます。そこでまず、キャッチャーはバッターがバッターボックスに入る前の素振りの様子を逐一観察します。そのスイングを見ていると、おぼろげながらではありますが、そのバッターの得意なコースが見えてくるからです。例えば一般的に、バットを巻き込むようにスイングをするバッターであれば内角、逆にドアスイング系のバッターであれば外角が得意なコースと考えられます。更に、バッターボックスに入ったらその立ち位置を観察します。バッターには、それぞれボックス内での立ち位置に特徴があり、それによって苦手とするコースが見えてくることもあるからです。例えば、内角があまり得意で無いバッターは、ベースから若干離れて構えたりするからです。これらを総合して考察し、バッターにとって打ちにくいだろうと考える配球を組み立てながら、ピッチャーにコースと球種のサインを出し

ていきます。更に、バッターの球の見逃し方、又はスイングの仕方をも参考にしつつバッターの裏をかくようなサインを出していきます。このように、キャッチャーは守っている間は常に頭をフル回転させているので、精神的に疲れます。

仕事その2 指示を出す

キャッチャーは場面ごとに、特にピンチに陥った場合には、守備位置を定位置から変更するように指示を出さなくてはなりません。例えば、得点が僅差で競っていて、ランナーが3塁にいる場合にはバックホーム体制を敷かせるために内野を前進させたり、ランナーが1塁にいて長打を警戒する場合（大きな打球を打たれても得点を許したくない場合）には外野の守備位置をライン際に寄るように指示を出します。また、打球が外野の頭を抜かれた場合には、ランナーをなるべく先の塁に進めないように、球を捕球した外野手がどこに球を返球したらよいか大声で指示をしたり、その返球の中継に入る野手の位置を指示したりします。とにかく、場面が変わるそのたびに（ピンチになるたびに）キャッチャーは外野まで聞こえるような大きな声で指示を出さなくてはならないため、試合が終わるころには声がかれていたなんていうこともしばしばあります。

仕事その3 記憶する

キャッチャーは、前の打席で打たれたバッター、そのとき打たれた球種・コース、打球が飛んだ位置を記憶しておかなくてはなりません。なぜなら、打たれたデータを生かして次の打順の時にそのバッターを打ち取るためです。例えば、打たれたコースに同じ球種をなるべく投げさせないようにピッチャーにサインを出したり、前の打席で外野の頭を越すような大きなあたりを打たれたバッターの時には外野手を深く守らせたりします。また、打たれた

ときの状況だけではなく、打ち取ったときの状況も記憶しておかなければなりません。なぜなら、楽天の野村監督が言うように、野球は「確率論」だからです。バッターの苦手な球種・コースに投げ続けていけば、打たれる確率はかなり低くなりますし、仮に一人のバッターにたまたま打たれたとしても次のバッターにまで打たれて（連打されて）点をとられる確率はかなりゼロに近づくからです。そのため、キャッチャーは結局殆ど全部の場面を覚えていなければならないため、記憶力が要求されます。

仕事その4 ピッチャーの投げた球を受ける①

キャッチャーは、ピッチャーの投げた球をほぼ毎回捕球しなければなりません。しかし、毎回ただ漫然と捕球すればいいという訳ではありません。ピッチャーが投げた球が、ボールかストライクかのギリギリのコースや高さに来たときにダラダラと捕球をしていたのでは、審判から毎回「ボール」の判定を受けかねません。そのため、際どい球を審判にストライクであるかのように見せるため、キャッチャーは特別な取り方をしなければなりません。例えば、低めの際どい球であればミットを下から突き上げてストライクゾーンに押し込むように取ったり、ベースの左右に逸れていく球であればベース幅の外側から内側に引っ張り込むようにミットを動かしながら取ったりします。しかし、球を取ってからキャッチャーミットをストライクゾーンに動かしたのではあからさまに分かってしまい、審判に逆に悪い印象を与えてしまいます。そこでキャッチャーは、キャッチャーミットをストライクゾーンへ移動させる途中で球を取るような捕球の仕方をし、審判の目をなんとかごまかす努力をしています。

仕事その5 ピッチャーの投げた球を受ける②

また、ピッチャーの投げる球が常にキッチンとキャッチャーに届くわけではなく、時にはワンバウンドの球が来る時があります。そんな時も、キャッチャーは球を捕球しなければなりません。その取り方（止め方）には幾つかのバリエーションがあります。ランナーが1人もいなくてバッターの振り逃げの可能性が無い場合には、球を逸らしても問題無い場合自分の取りやすいバウンドの位置を見計らっ

てキャッチャーミットのみを動かして捕球を行います。一方、ランナーがいて進塁を許したくない場合には、確実に球を取る（止める）ためにピッチャーが投げた球の正面に体ごと回りこみながら、球を体又はミットに当てに行く感じで取りに（止めに）行きます。このように、キャッチャーは時には体を張らなければならないため、体の思わぬところに球が当たってかなり痛い思いをすることが多々あります。

仕事その6 投げる

キャッチャーは、ランナーが盗塁しようとして走った場合には先の塁に送球してランナーを刺さなければなりません。しかし、山なりの送球をしていたのでは足の速いランナーを刺すことはできませんし、何より試合が縮まらずにダラダラしたものになってしまいます。よって、キャッチャーは強い肩をつくるためのトレーニングをします。例えば、ハンドグリップを握って握力を鍛えたり、チューブトレーニングでインナーマッスルを鍛えたりと様々なトレーニングを行います。一方、いくら肩が強くても球を捕球してから素早く送球できなければランナーの盗塁は刺せません。そのため、キャッチャーは捕球してからなるべく早く送球できるような投げ方を模索します。今までよりもコマ1秒送球が早くなれば、いつもはセーフだったランナーをベースの1mも手前でアウトにできるからです。よってキャッチャーは、投げるときに振り上げる腕の高さやピッチャーの投球を受けるとき足のつま先の向き等、細かい動作にまでこだわりながらコマ1秒でも送球の時間を短縮できるように日々研究します。

紙面の都合上全部は書ききれませんでした。このようにキャッチャーの仕事というものは大変なものも多く、しかもどれもが重要な仕事なのです。そのため、キャッチャーが試合で上記仕事のいずれかをきっちりこなせなかったばかりに、試合の流れが相手チームに渡ってしまうというケースが数多く見受けられます。今までキャッチャーの事をあまり良く知らなかった方は、今後上記のようなことを参考に野球を観戦すると、新たな楽しみ方が見つかるのではないのでしょうか。



「サンフランシスコ訪問記」

那 須 威 夫 (春秋会)

はじめに

私は、勤務する事務所の研修制度により、今年の6月半ばから8月半ばまでアメリカに滞在した。最初の一月は東海岸のBSKBという事務所で行われた研修コースに参加した。このコースは一ヶ月間で米国特許法の概要をレクチャーをしてくれる日本でも有名な研修コースだ。その後西海岸に移動して、サニーベイル市にある特許事務所でお世話になった。サニーベイルは、マウンテンビュー、サンタクララとともに、シリコンバレーの中核を成す町である。そのため、ちょっとドライブすれば、ヤフー、グーグル、インテル等の世界的なIT企業の本社が次々と目に入ってくる。電気分野を専門とする私にとっては、ドイツの古城巡りよりずっとワクワクするドライブを体験することができる。そんな素敵な町サニーベイルの特許事務所にて、平日は、それはそれは一生懸命に研修に励んだ。しかし、残念ながら土日は、事務所はお休み。折角なので週末を利用して観光することにした。サニーベイルの近くには、シリコンバレーの中心都市サンノゼ、カリフォルニアワインの産地として有名なナパバレーなど見所は満載である。ここで私が研修中に学んだ米国特許法について会員の皆様にご紹介しても釈迦に説法であると思われる。そこで本稿では、西海岸での観光、特に、トラブルの多かったサンフランシスコ観光について報告したい。

いざサンフランシスコへ

サンフランシスコは、サニーベイルから北西約60 kmに位置する人口約80万人の北カリフォルニア最大の都市である。金曜日の夕方、事務所から帰り、最寄のLawrence駅までホテルに頼んでヴァンに乗せてもらう。そこからCaltrainという電車に乗って約1時間でサンフランシスコだ。Lawrence駅ではガラガラだった電車が、途中のPalo Altoあたりからどんどん混んできた。なぜだろうと様子を窺うと、乗客の多くが野球のユニフォームを着ている。そう、今日はサンフランシスコ・ジャイアンツの試合があるの

だ。子供はグローブを持って、大人はテキーラとコーラを抱えてジャイアンツの話で盛り上がっている。大人から子供までジャイアンツが大好きなようだ。それにしてもサンフランシスコ・ジャイアンツのユニフォームは、読売ジャイアンツのユニフォームに似ている。激似だ。あまりに似ているのでちょっと調べてみた。Wikipediaの「サンフランシスコ・ジャイアンツ」の項によれば、「読売ジャイアンツはこのチームから名前とユニフォームを採用して」おり、「1935年に大日本東京野球倶楽部（現在の読売ジャイアンツ）がアメリカに遠征した際、対戦チームの監督だったフランク・オドールから、ニックネームがあったほうが良いと提案され、当時メジャーで人気のあったニューヨーク・ジャイアンツ（現在のサンフランシスコ・ジャイアンツ）のジャイアンツをとり、『東京ジャイアンツ』と名乗ったのが由来である」そうだ。なるほど。

かくしてサンフランシスコ駅に着くころには、東京の満員電車と同じくらいの混雑具合となった。駅に到着するとプラットフォームに降り立ったサンフランシスコ・ジャイアンツファンが一斉に同じ方向に歩き出す。まさに水道橋駅から東京ドームに向かう読売ジャイアンツファンと同じである。私もそのままジャイアンツの試合を見に行こうかな、とも思ったのだが行けない理由が生じた。とても寒いのだ。周りを見れば8月だというのに地元の人はコートを着ている。サニーベイルも夕方は涼しいので長袖を一枚持ってきた。とりあえずそれを羽織ってはみるがその程度ではまったく解決しない。日本でいえば12月初旬くらいの気候ではなからうか。外でうろろろしては凍えてしまうので、まっすぐホテルに行くことにした。吹きっ曝しのプラットフォームで10分弱待った後、MuniMetroというトラムに乗り込みホテルの最寄駅まで20分ほど乗る。そこから10分歩いて宿泊先のホテルに到着。着くころには体は冷え切って鼻水が出ている始末。早く部屋に入って温まりたい思いで急いでチェックインし、ようや

く部屋に入ったがなんだか部屋が散らかっている。掃除が済んでいないのだ。なんてこった。外の寒さでだいぶ斜めになっていた私の機嫌はさらに傾いた。「絶対文句を言ってやる！」と意気込んでフロントへ行くが丁寧に謝られてしまい、「いえいえお気になさらずに」と全く文句を言わずに新しい部屋の鍵をもらって部屋に入った。ああ気が弱い。部屋で一服した後、ホテル近くのタイ料理屋でおいしい夕食を食べて機嫌を直し、翌日の観光に備えて早々に就寝した。

霧の街サンフランシスコ

翌日、7時に起床してカーテンを開ける。曇り。霧が出ている。これが有名なサンフランシスコの霧か。サンフランシスコは10日のうち7日は霧が出るのだそうだ。夏の間はほとんど雨が降らないこの地域では、この霧が木々の葉にまとわりついて水滴となり地面に落ち、植物はそれを吸って雨季である冬が来るのを待つのだそうだ。一方、人間は霧だけでは必要な量の水を得ることはできないので、350 kmも離れたダムから水を引いているのだそうだ。アメリカって壮大だ。さて、とにかく、この日は曇りで霧が出ている。どうやら気温は上がりそうにない。仕方がないのでちょっと悔しいがホテルの売店で32ドルのフリースを買った。

この日は一日市内観光ツアーに参加することにしていた。9時10分、小さなヴァンにピックアップしてもらい市内観光へ。午前中はツインピークス、ゴールデンゲートブリッジ等に行ったが霧が深くほとんど景色が見えない。気温は確実に低い。しかしフリースのおかげで暖かい。暖かさ、プライスレス。その後、魚市場のフィッシャーマンズワーフで昼食をとった。パンをくり抜いて作ったボウルにクラムチャウダーを入れたものとカニを注文した。ボウル代わりにパンをクラムチャウダーに浸しながら食べるととてもおいしい。カニは、種類はわからなかったが茹でたカニでシンプルな塩味。爪の先まで食べ尽くした。



Figure 1 Caltrain

午後は船に乗ってアルカトラズ島へ。この島はサンフランシスコの対岸1.6 kmの距離に位置し、1934年から連邦刑務所として使用され、シカゴ暗黒街のボスとして有名なアル・カポネら矯正不可能とみなされた者が服役した。その後1963年に刑務所は閉鎖され、現在は観光地となっている。観光用に整備された刑務所の中では日本語のオーディオガイドがついていて、「俺はこの囚人でジョニーって言うんだけどよお。人はたくさん殺したぜ。」みたいなリアルなガイドを聞くことができる。島を観光しているうちにだいぶ晴れてきて、サンフランシスコの中心街が見えるようになった。それほど大きな街ではないが、起伏の激しい地形に近代的なビルが立ち並ぶとてもきれいな町であることがようやくわかった。アルカトラズ島で2時間程度観光して市内へ戻り、観光ツアーは終わり。その後、ギラデリというチョコレート屋さんでお土産を買い込みホテルへ戻った。

観光最終日

翌日は、坂の多い市内を頑張って徒歩で半日観光した後、Caltrainでサニーバイルへ戻った。Lawrence駅からホテルの迎えをお願いする予定だったが、日曜日は来てくれないことが判明。駅にはタクシーもいない。仕方なく40分程かけて歩いた。歩けない距離ではないが午前中の坂道で疲労した体にはなかなか堪えた。最後までトラブル続きではあったがおいしいものを食べ、きれいな景色が見られた楽しい旅だった。トラブルなくすべてがスムーズにいった旅というのは意外と記憶に残らない。今回の旅は一生記憶に残りそうだ。

終わりに

この研修を通じて多くの人に出会い、多くの経験をする事ができた。特許法を学ぶというだけにとどまらず、私の人生にとって非常に貴重で有意義な2ヶ月となった。このような機会を与えてくださった事務所に感謝の意を表して本稿を締めさせていただきます。

以上



Figure 2 サンフランシスコの街並み



「登山」

松崎 隆（春秋会）

大学時代に探検部に所属していた私は、沢登り、山登り、川下り、洞窟探索等の活動をしていました。その中でも沢登りが活動の中心でした。沢登りという聞きなれない方もいると思うので簡単に説明すると、山道ではなく、川を遡行し山の頂上を目指すというものです。初めて沢登りをした時は、遡行途中に何度も滝に出くわすことに驚きました。観光名所で拳がるような滝しか見たことのなかった私は、一つの川にこんなにたくさんの滝が存在するのかと感動したのを覚えています。高低差がある危険な滝でなければ、ロッククライミングのようによじ登っていきます。もちろん危険なので、ヘルメットやロープワークは必須です。沢登りは大学当時の仲間と3、4年前に屋久島の沢を挑戦したのが最後です。屋久島の沢は、スケールが違います。川の周辺に転がっている岩の一つ一つが、自分の背丈以上あり、自分の目線より上に、横倒しの太い流木が倒れています。見上げるような高さまで川の水が増すのを想像すると、身震いが止まりません。そんな屋久島の沢も、今ではとても懐かしい思い出になってしまいました。大学院へ進学し就職するにつれ、友人との予定も合わなくなり、長くアウトドア活動もしていませんでした。

1. 久しぶりの登山

山に行きたいという衝動が高まっていた今年の夏、久しぶりに大学時代の友人3人と山へ行くことになりました。沢登りが懐かしくて話してしまいましたが、残念ながら今回は普通の登山です。実は去年に計画していた登山なのですが、予定日にタイミング悪く台風がきてしまい、結局1年延期して今年行くことになったのです。去年の計画では、日本三大雪渓のひとつとして知られる白馬大雪渓に行くはずでした。しかし長期の休みが合わなかったため、今年の登山は白馬連邦のうち唐松岳のみに行くことになりました。白馬連峰は北アルプスの北部に位置する後立山連峰のうち、白馬岳を中心とした山城をいいます。その連峰の中にある唐松岳は標高2696mの山で、長野県と富山県の県境に位置しています。

2. 1日目（新宿～白馬～唐松山荘）

往路は、新宿から特急あずさで白馬駅まで行きました。そこから白馬八方のゴンドラ山麓駅までバスと徒歩で移動し、ゴンドラリフト、クワッドリフトを乗り継ぎ、標高1831mの第1ケルンのある八方池山荘に向かいました。その日は快晴で雲ひとつなく、素晴らしい天気でした。山肌はあたり一面に綺麗な花が咲き乱れ、心が自然と躍るような素晴らしい景色でした。唯一の失敗は、男同士でリフトに乗ってしまったことです。2人の男がゴンドラに揺られながら、心を躍らせるのを想像してみてください。・・・悔しいです。八方池山荘からの山道の途中には、八方池という池があり、この八方池は観光名所としても有名です。八方池山荘から八方池までは約1時間、八方池から唐松山荘までは約2時間30分の行程でした。私の友人は植物の研究者であり、普段から植物の採集をしに山に行きます。そのため高山植物についても非常に詳しく、行く先々で出会う植物の名称とその植物の特徴を詳しく説明してくれました。しかしあまり植物に興味をもてない私は、なかなか名前を覚えられず、チングルマという少し衝撃的な（自分だけ？）花の名前は忘れずに覚えられました。山道はそれほど険しくなく、またリフトでかなり上ってこられるため、ゆっくり登ることができ、日が暮れる頃には唐松山頂付近にある唐松山荘につくことができました。

3. 山小屋にて

登山では常にテントで寝ていた私は、山小屋で宿泊するのは初めてでした。想像はしていましたが、夏休みに入る前の3連休ということもあり山小屋は非常に混んでいました。部屋は6畳一間で、男のみの8人部屋です。もちろん寝返りをするスペースなんて当然無く、敷布団も2人で一枚です！すさまじいびきの大合唱の中（みなさん疲れていたのでしょう、祭りなみの賑やかさでした・・・）、友人と同じ布団で一夜を過ごし、ゴンドラから深まっていく友人との絆を深く感じました・・・。なかなか快適とは言えませんが、山の天気は変わりやすく、夏と

いえども夜は冷えるので風や寒さを凌げるだけで非常に助かります。

4. 2日目（下山）

朝早く起きた私たちは、日の出を見ようと山小屋裏の山頂で日の出を待ちました。しかし残念ながら曇りが晴れず、日の出を見ることはできませんでした。朝食を取った後、すぐ近くの唐松山頂まで登頂しました。唐松山頂付近には、コマクサがたくさん咲いていました。コマクサは、厳しい環境でも生育することから「高山植物の女王」と呼ばれているそうです。この花も、ピンクの花弁が綺麗だったので覚えています。登頂後は、同じルートで下山しました。下山後は温泉に入り、疲れを癒してから東京に戻りました。今回行った場所は、楽に登山が楽しめ、帰りに温泉も入ることができて非常に満足でした。

5. 思い出

山頂近くの山道は険しい所が何箇所もありました。久しぶりの登山であったこともあり、友人が足を滑らして滑落したときにすぐに助けられるのか、なんて思いながら内心ひやひやしていたのを覚えています。山登りをしていると、杖をつきながら年配の方たちがすいすいと登っていく姿をよく目にします。大学時代、急勾配の雪渓を降りていたときに滑落の恐怖を感じる私の傍らを、談笑しながら登ってくる年配の方達の姿がなんとも頼もしく見えました。近頃さらに運動不足になってしまった私には、本当に頭があがりません。登山者はお互いがすれ違うとき

に自然に挨拶をかわします。挨拶をされたほうもしたほうも気持ちが良いものです。登山中は、下山者に励まされ、下山中は、あとどれ位で頂上に着くのか、頂上の天候はどうだったのかなど登ってくる方達との会話が自然に生まれ、山の景色だけでなく、人との触れ合いからも心が温くなるのを感じます。今回は行程の距離も短く、またゆっくり登ったので辛く感じることはありませんでしたが、山登りをして良く思うのは、なんでこんなに辛く感じるのにまた山に来てしまったのだらうということ。もう山はいいやと思っていたのに、そんな思いも薄れたころにまた来てしまう。そしてまた同じ事を思う。何度繰り返したことかわかりません。山に登るのは、そこに山があるからだなんてよく聞くセリフがありますが、山には本当に不思議な魅力があります。私と同じように最近運動不足だなと感じている方には、是非登山をオススメしたいと思います。ただ、気をつけて頂きたいのは、危険も隣り合わせているということです。白馬連峰は、遭難者が多く、私たちが登っていた日も2件の遭難届けが出ていて、捜索用のヘリが飛んでいました。特に大雪渓は、雪崩による遭難者がよく出ています。私たちが今回登ったうちの八方池までのルートなら、一日でも往復することができ、また十分に山の景色や高山植物を楽しむことができるので初心者の方にはオススメです。自分のペースで無理をせず、登山を楽しんで頂きたいと思います。



チングルマ



コマクサ



八方池



残雪の上を登り中



「アートアニメーションの世界」

深川 英里 (春秋会)

今年はこれといった夏の思い出もなく、気付けばもう秋の足音が聞こえて参りました。若い頃は、夏といえばアウトドア。カヌーで溪流を下ったり（というか流されたり）、無人島にシーカヤックで漕ぎ出したり（船酔いになりながら転覆したり）、いろいろチャレンジしてみたのですが、ここ数年はそんなアクティブな活動からはめっきり遠ざかっております。体力が低下した今日この頃、休日にはDVDを観たり、買い物をしたり、映画を観に行ったり。最近特にはまっているのは、アートアニメーション。思い出してみれば、何もなかったようなこの夏も、上映会には何度か足を運びました。

アートアニメーションの世界に惹かれたのは、山村浩二監督の「カフカ田舎医者」（2007年）を観たことがきっかけでしょうか。最近の商業CG作品ってスゴイけど何か胃もたれするわ〜と思っていたときでした。山村浩二監督は、アカデミー賞短編アニメーション部門にその作品がノミネートされて話題になった人です。以前ニュースで紹介されていたため名前は知っていたのですが、実際に作品を観たのはその時が初めてでした。激しく歪んだ人物の形状や震えるアナログの描線が、主人公である田舎医者の孤独感と不安感を非常に強い力で観客に訴えてきます。20分に1万枚以上の原画を使用したという手描きアニメーションの迫力には、ゲームや商業映画において見かけるような、リアリティや精密さの追求から生まれるものとはまた違ったインパクトがありました。そして、狂言師の独特の声が歪み揺らぐ画像と相まって美しい世界を紡いでおりました。

この作品を鑑賞した後に、ふと頭に浮かんできたアニメーションがあります。それは「まんが日本昔

ばなし」。幼い頃、毎週放映されていた「まんが日本昔ばなし」は、物語に潜む感情、雰囲気、メッセージ等を重視して多様な表現方法を駆使した素晴らしい作品でした。ちぎり絵、ドローイング、水彩等、様々な技法で作画されたアニメーションが展開されていました。人物の描き方も丸みを帯びたユーモラスな形状や長く引き伸ばされて不安感を抱かせる形状など、お話によって描き分けられています。子供向けの楽しいお話だけでなく、貧しい時代を背景にした残酷な民話に基づく作品も多くありました。絵の雰囲気や音楽の調子から、最初の数秒ですぐに「これは怖いお話だ」と理解したものです。幼い頃はこの「怖いお話」というのが苦手でしたが、「怖いお話」における白黒の木版画調の表現や長く引き伸ばされた人体の形状などは、物語の残酷さとその裏にある切なさと共に脳裏に焼き付いております。有名な昔話ではなく、この「怖いお話」バージョンについてはDVDなど入手できるものはありません。非常に残念です。DVD化を切に望みます！

さて、話がそれてしまいましたが、「カフカ田舎医者」に始まり、今年はいくつかのアートアニメーション作品を鑑賞いたしました。物語性の強い作品や実験的な表現の試みを行っている作品など様々ありましたが、意外と抽象的な作品にハマりました。

まず、ジェイムズ・ホイットニー監督「ラピス」（1966年）。アートアニメーションというよりは、アメリカ実験映画の歴史的な作品といった方が良いかもしれません。確かシターの音色だったと思いますが、インド風？の音楽と共に無数の光の粒子が万華鏡のように変化していきます。所定のパターンに穴あけした原画の裏から光を透過し、それをコマ撮

りして制作されたそうです。軍払い下げのコンピューターを使用して作られたこの作品は、アブストラクト・CGアニメーションのはしりとして位置づけられていますが、今観ても十分新鮮ですし、現在のCGでは表現できない奥行きを感じます。

また、日本の作品としては、相原信洋監督「Wind」（2000年）が印象的でした。16mmフィルムで5分間という短い作品です。生成されては消滅していく曲線のうねるような踊りが原始的、宇宙的であると共に繊細な表情を持っています。描線を重ねた無数の原画から生み出された形態の動きは、まさしく“animation”というものを実感させてくれました。

ストーリーがしっかりした作品を鑑賞しているときは、織り込まれた仕掛けを楽しみながら、予め周到に用意されたツアーを作り手の意図する方向へと導かれていく感覚があります。それはそれで素敵な時間を享受できる場合も多く、リフレッシュしたり、自分自身のあり方を考えさせられたりすることもあります。一方、抽象的な映像作品を体験すると（まさに鑑賞というよりも体験という感覚）、ときに、自身の感覚の非常に深いところにアクセスされ、かき回されます。論理的な思考や感情的な想いというよりも、もっと肉体的な、暑いとか寒いとかいった感覚に近いかもしれません。理解しようというよりも体感することで得られる未知の感覚と開放感がやみつきになりそうです。

但し、抽象アニメーション作品は、ものによっては肉体的な感覚に対する攻撃力が強すぎて、体調が悪くなる場合もあります。反復される形状や音によって酔いみたいになったり、不快感を生じさせる意図的な表現を体が受け付なかったりするときもありました。映像を受け止める気力と体力が十分なときでないとは、なかなか鑑賞に行けません。

心と体が弱っているときに鑑賞したい作品は、若手映像作家である外山光男監督作品。「Trot」、「星会」、「赤の話」など優しく不思議な雰囲気ショートフィルム作品は、観終わった後、なんともいえない穏やかな気持ちにさせてくれます。中でも個人的に大好きな作品が「冬灯童話」。夜中の公園を舞台にした2分程度の作品ですが、その空気感もさることながら、ライティングがたまたま良いです！上映会のあと外山光男監督と話す機会があり、「冬灯童話」のDVD（市販はされてません）をいただきました（望外の喜び）。この文章を書いていたらまた観たくなってきました。書き終えたら観よう。。。

9月には、海外アートアニメーションの特集上映が下北沢のトリウッドにて開催されるので、今から楽しみです。好き嫌いは分かれると思いますが、大規模エンターテインメント映画にはない面白さがありますので、アートアニメーション、秋の夜にいかがでしょうか？





大阪湾で海釣りをしています。

関 京 悟 (稲門弁理士クラブ)

1. はじめに

最初に就職した会社の勤務先の関係で長年過ごしてきた関東を離れ、私は現在、大阪市内に住んでいます。海釣りは始めたばかりなのですが、コツコツと道具などを揃え、今では月に数回は釣りに行くようになりました。ここでは、少しは上達した私の海釣り、それと関連する幾つかについて書かせて頂きたいと思います。

2. 平成19年10月～12月

大阪に来て初めて海釣りをしたのは武庫川一文字という兵庫県西宮市の少し陸から離れたところでした。最初は100円ショップで購入した小さい安物のクーラーボックスだけを携え、その他の道具はすべて渡船業者からレンタルしました。その日はちょうどタチウオ(腰に巻くベルトのような長細い魚)シーズンで、仕掛けも今思えばタチウオ用だったと思います。しかし当時は糸の結び方も知らなければ、「タナ(水深)」という言葉すら知りませんでした。結果は言うまでもありませんが、とりあえず大阪でも釣りができるのだとその日は満足していたような気がします。

三回目頃から徐々に釣れるようになりました。最初の頃は「海釣りに来た」というだけで満足していましたが「本気で魚を釣りたいんだ!」という気持ち(集中力)が湧いてくると釣りの技量がみるみる上がっていきました。

以降、現在に至るまで感じるのですが、釣りに行って魚を釣るには技量云々の前にそこに魚がいなければいけないのですが、いま、そこに魚がいるのか/いるとしたらどんな魚がいるのかを十分に把握しなければならぬと痛感しています。例えば渡船業者のHPには前日の釣果情報が載っていますから活用できます。それといざ釣りにいってもベテランの

方が少ないのは好ましくありません。というのは、魚がいないとき/いても釣れないときは必ずと言っていいほどベテランの方もいないからです。

3. 平成20年4月～5月

この季節には武庫川下降付近でハネのエビ撒き釣りというものにチャレンジしました。しかし、この釣りにはしばらく辛酸を舐めさせられました。というのは、一回の釣行で1～2匹(40cm前後)釣れることもあったのですが、3回に2回は全く釣れませんでした。その間、何が原因なのかひたすら考え、本やインターネットでいろいろと調べたのですが原因は単純なことでした。ある日、いつもの通り釣れない釣りをしていたら小型船が目の前を横切ったのですが、そのときそばで釣りをしていたベテラン(?)の方にその船が底曳き漁船であることを教えていただきました。つまり、私のライバルはハネではなく底曳き漁船だったのですね!そして、どうやら底曳きされたら一週間くらいは釣れなくなるらしく、その底曳きのスケジュールもわかりませんからこの釣りは早々に諦めました。

4. 平成20年6月

途方も暮れているところにスルメイカシーズンがやってきました。早速、それなりの仕掛けを買い揃えスルメイカ釣りにチャレンジすると、これは意外と簡単に釣れました。「簡単に」というのは、私の中では概ね「1匹/15分」以上を意味しています。)以前、スーパーで買ったスルメイカで塩辛を作ったことがあったので、塩辛にしたりそのまま焼いたりしてまさに海の幸といったところでした。

この頃から、もう少しキレイな海で釣った魚を食べたいと思うようになり、和歌山県との県境にある岬町へ出掛けるようになりました。そして、あるとき、20リットルのポリタンクと携帯用エアポンプを持っ

ていきました。目的は、自宅にある海水魚の水槽に和歌山の新鮮な海水を入れてみたかったからです。ちょうどその日は豆アジやカサゴ（とげとげしく赤茶色の魚）、ベラ（蛍光ペンで化粧したような魚）が釣れたのでそれらをポリタンクで持ち帰ることにしました。いざ水槽の中にそれを入れて観察してみると、いつもどういったところに潜んでいるのか、好物は何か、捕食のときは神経質か大胆か、といった具合に魚の習性が手に取るように判ります。

余談になりますが、当初は豆アジは水槽内に15匹程度いたのですが現在は3匹となってしまいました。この間2～3回、豆アジの生から死へと切り替わる様子をみる機会がありましたがなんともよく判りません。病気でもないですし、さっきまでエサを食べていたのでストレスでもないですし、他の豆アジは元気に泳いでいますし、それでもって急に2～3匹が一斉に上下左右構わずに水槽の壁に突進し続けるのです。エサが喉に詰まったのでしょうか・・・。

5. 平成20年7月

7月になると、前述の武庫川一文字ではカサゴがよく釣れるようになりました。先日知ったのですがカサゴはスーパーでは高級魚（900円／1匹）なのですね。そんなカサゴを釣行後の一週間くらいは1回の食事で3匹くらいいただいていますので実は相当贅沢をしていることになります。そして、そろそろ

またタチウオシーズンがやってきます。ちょうど、海釣りを始めて一年が経つんですね。

6. 釣りを始めたことで

魚を捌くために各種包丁や砥石を揃えたり、釣り場に行くためのバイクを買ったり、など釣りを始める前と比べて生活の幅が少し広がったような気がします。特に包丁研ぎに関してですが研いだ面を蛍光灯にかざして観賞するのが好きで、あの光沢をとりあえず確認すると幾分リフレッシュできます。ところで包丁研ぎの所謂カエリというのが今でもなかなかうまく取れません。コツとかあるのでしょうか。今はただ爪で摘んだりティッシュで絡めたりして取っています。

7. おわりに

一年間、海釣りを続けてみて感じたのですが、やはりベテランの方をマネさせていただくのが上達への近道だと思いました。ベテランの方のなさることには無駄がありませんし（特に荷物がとても少ない！）、本には載っていないノウハウをたくさんお持ちです（いつも目から鱗です）。海釣りに限らず仕事についても、よき先輩のアドバイスをどんどん吸収していこうと改めて思いました。

以上、思いつきの文章で申し訳ございませんが、最後までお付き合いいただき有難うございました。





欧州特許研修に参加して

細田 浩一（稲門弁理士クラブ）

欧州特許制度を学びに英国へ行って来ました。



1. 研修プログラム

私が参加したのは、ロンドンのMewburn Ellis LLPが毎年開催している数週間の研修プログラムです。ホームページの募集サイトを見ると、別段日本人だけを対象としているわけではないのですが、13名の参加者のうち12名までが日本人。もう一人はインドからの参加者でした。

私は企業内弁理士として5年ほど勤め、つい最近になって特許事務所に移ったのですが、欧州特許の実務についても勉強しておきなさいと早々に研修に出してもらいました。少し大きな事務所だと研修に行きたくても事務所内で順番待ちがあるようで、勤務を始めて3ヶ月目で研修に来ていているという話をすると、たいてい驚かれました。

研修には、特許事務所勤務の弁理士、企業勤務の知財担当者や弁理士が参加していて、受講者の実務経験や登録年数、語学力などはだいたい私と同じぐらいの人が多かったと思います。普段、英語を話す機会が少ない日本人が英語を聞いて話すので、ややぎこちない所もありましたが、そのぎこちなさもなかなか楽しいものでした。私も夕食会の場で、英語のpensionを日本語のペンションと勘違いして、おかしいな質問をしてしまいました。

2. 研修内容

特許事務所の代理人が代わるがわるの講義を行ない、約20コマのカリキュラムをこなしました。研修への参加条件として基本的な特許制度の理解が必要だったので、さすがに特許実務の初心者はいませんでした。私を含め受講者は、日本の特許制度との対比をしながら、欧州の特許制度を理解していったように思います。英語がうまく聞き取れない時も、「日本の制度と同じか、違うか。」ということだけでもわかれば、概略は理解できました。講師への質問内容も、その異同を確認するものが多かったようです。

3. レクリエーション

現地事務所が開催する研修にはつきものかもしれませんが、ご多分に漏れず、いくつかのレクリエーションプログラムが用意されていました。ロンドン市内を一望する大観覧車「ロンドンアイ」への搭乗、ミュージカル「ライオンキング」の鑑賞、世界遺産都市「バース」や大学都市「ケンブリッジ」への小旅行などです。「ライオンキング」は、台詞がよく聞き取れず残念でした。もっと勉強してからもう一度見るか、日本語版を改めて見るか、迷っているところです。

それにしても、英国人は歩くことを厭わず、平気で1時間近く歩いてしまうのには驚きました。日本人からすると、「きっとバスかタクシーで移動するのだろう」と思っている距離が、何の前触れもなく散歩コースになります。バース、ケンブリッジ、そして後述するミュンヘンでも、「ちょっと長く歩きますよ。」などという前置きもなく、”One, two, three...Good.”と人数確認が済むとすぐに先導者が歩き始めました。それも歩くスピードとしては驚異的な速さです。よく誰も行方不明にならなかったと思います。普通に注意力散漫な日本人が混じっていた

なら、必ず迷子になっていたはずで

す。ただ、私はそのことがとても気に入りました。私
もつい自分のペースで歩いてしまい、気が付くと同
伴者の機嫌が悪くなっていることがしばしばあるか
らです。ロンドンなら、そのような心配は無用なの
かもしれません。



4. 欧州文化との触れ合い

欧州は、公私を含めて私が訪れたことのない地域
でした。これまで海外旅行をしたことはありましたが、
米国本土やハワイ、カナダのほか、アジアの各
国に行ったことしかありませんでした。各国ごとに
さまざまな文化を体験しましたが、今回の研修で受
けた欧州文化の印象は「気品」でした。特にロンド
ンは、華やかというわけではなく、むしろ古めかし
い地味さが感じられましたが、あらゆる人々が誇り
を持ち、心に余裕を持って生活しているように見え
ました。これには是非私も見習いたいと思いました。

ほんの少し前の日本では、多くの人自身が誇り
を持って生きていたように思います。やや肩肘を
張ってまで自分の存在意義を知らしめようとする
姿には、戦後の日本が高度成長を遂げた理由が隠さ
れていたのではないかと思います。

しかし、いまの日本はすっかり元気がない国に
なってしまった感があります。しかし、この状況は、
日本文化がグローバル化の波にもまれて今だ
けの過渡的な状況だと信じたいものです。グローバ
ル化の波に飲まれて日本文化を捨て去るのではな
く、日本文化の良い部分を我々自身が認識し、逆に
輸出していくぐらいの勢いが出てくれば、きっと日
本も元気を取り戻すでしょう。

5. ミュンヘンEPO訪問

研修メンバーのうちの多くは、英国での研修コー
ス終了後にドイツのミュンヘンにある欧州特許庁を

訪れ、特許無効審判の口頭審理を傍聴しました。EPO
は新規事項の追加について非常に厳しい態度を取る
のだと英国での研修の中で教えられた通り、我々の
目の前で、その特許は訂正が認められずに無効とさ
れてしまいました。その場で有効無効の結論が出る
EPOの口頭審理は、なかなか刺激的なものです。

その後、一人の審査官が調査に関する講義を行な
い、我々と意見交換や会食をしました。その審査官
は、何度も「データ」という言葉を発してしまっ
たが、それは「DATA」のことだったようです。ドイ
ツ語なまりなのでしょう。

ミュンヘンでは、研修のオプションとしてのEPO
訪問が共通日程に組まれていただけで、後はそれ
ぞれの自由行動となりました。EPO訪問をしたその
日のうちに帰国の途に着く人、ミュンヘンの代理人
を訪問して帰国する人、ロンドンに戻って仕事をす
る人、家族と落ち合って旅行を楽しむ人、ドイツの
後はフランスなど欧州をぐるりとまわって帰る人
など、各者各様のスケジュールを消化していきまし
た。私は3つほどミュンヘンの代理人を訪問してか
ら、最後の1日を使ってノイシュバンシュタイン城
を見学し、帰国しました。

6. 事務所弁理士としてのこれから

もしかしたら一生、自分は企業内で勤め倒すので
はないかと思ったこともありますが、ちょっとした
きっかけで特許事務所に勤め始めました。これまで、
他人の作成した明細書を見て「ココ直して!」「もっ
とちゃんと書いてよ。」という指示を出す気楽な立
場でしたが、これからは、それらを言われる側の立
場になります。これからはクライアントを相手にし
つつ、私なりの気品を大事にしながら弁理士として
生きていきたいと思っています。



以上



娘とパン作り

貝塚 亮平 (稲門弁理士クラブ)

ついこの間産まれたと思っていた娘が、三歳を過ぎ、今年から幼稚園に通っている。最初の頃は、集団生活をするにはまだ幼すぎる面が多々あったので、幼稚園なんてちゃんといけるのかと思っていたが、数ヶ月経つと見違えるほどしっかりとしてきた。話の内容も以前とは比べものにならないくらい高度になってきたし、行動も大人にぐっと近づいた気がする。幼稚園での出来事も色々と話してくれるので、様子が良くわかる。でも、それだけ成長した分、私の言動に対する突っ込みも容赦が無くなってきた。先日、一緒に出かけるので着替えていたら、「パパ、それ着て行くの？変だよ、違うのにしなよ！」と言われた。もうそんなこと言うようになったのか、やれやれ、先が思いやられるなど思いながらも、言われたら確かにそんな気がしてきたので、もう一度着替えて「これでいい？」と聞いた。そしたら「うん、それならいいよ！」とのこと。女の子だけあって、なかなかチェックが厳しい。

毎日楽しそうに幼稚園に行くという娘だが、平日はあまり顔を合わせる機会がない。夜は寝顔しか見られず、朝は逆に娘がこちらの寝顔しか見られないというすれ違いの生活で、週末にしか会えないからだ。だから、せめて土日だけでも相手をしてあげないと（相手をしてもらわないと？）忘れられてしまうので、週末はできるだけ時間を作って一緒にいるようにしている。

夏休みがそろそろ終わろうとしている休みの日、そんな娘と一緒に家でパンを作った。妻がよくパン作りをしており、娘はいつも一緒に生地をこねているので、慣れていているらしい。私はといえば、今まで食べる専門だったので、パンがどのように作られているか全く知らなかった。妻は、娘が産まれてから

家で楽しめる趣味としてパン作りを始めた。最初はパン焼き機を使ってスイッチ一つで簡単にできる食パンを作っていたのだが、そのうちにいろいろ凝ったパンを作るようになった。最近では、天然酵母のパンも焼いている。形やトッピングもバリエーションが増えてきて、パン屋さんで買ってきたのかと思うようなパンが次々と出てくる。味の方も売っているパンより美味しいくらいである。今回が初めての私は、一から教えてもらい、初心者でも簡単にできるドライイーストを使ったパンを作り挑戦してみた。

パン生地をこねるのは、非常に重労働である。こねてから台に叩きつけたりすることで、きめ細かい生地ができあがる。娘にも切れ端を少し渡して、一緒にこねる。娘は、日常的にやっているのだから、非常に慣れた手付きで手際よく作業を進めている。その後、一次発酵させる。夏は生地が発酵するのにちょうどいい気温らしく、ぐんぐん膨らんでいく。

一時間ぐらい経ったあと、いよいよ成形である。ここは娘と一緒に粘土遊びの要領でできるので一番楽しい。でも、私が適当に丸めていたら、妻が横から「それじゃ、全然ダメ！もっと丁寧にやらないとふっくらとした美味しいパンにはならないから！」と厳しい一言。形の方は、せっかくなので定番の某アニメキャラを目指すことにした。生地を細かいパーツに分けて鼻や頬などを作っていく。私が顔をつくり、娘が小さな手で丸めた鼻などをそれに付けた。

その後、もう一度発酵させる。パン作りは、意外と時間がかかるものである。だが、この待つ時間も楽しみだ。もういい頃だと妻が言うので見てみると、顔のパーツが膨らみすぎてちょっとずれている。まあ、手作りの愛嬌ということにして、焼き上がりを

楽しみにオーブンに入れる。

オーブンの前から離れずに二人で見守った。小さなぞき窓からは手前側のパンしか見えなかったが、焼いている間もどんどん膨らみ、何の形だかよくわからなくなってきた。でも、そうしている間にいい匂いが部屋中に広がり、急に食欲が湧いてきた。焼き上がってオーブンから取り出して見ると、立派なパンになっている。色も美味しそうなこげ色で、まるでパン屋さんに並んでいるパンのようである。とりあえず一つ食べてみた。「おー、美味しい！」やはり焼きたてのパンは格別に美味しい。自分で作ったので尚更である。生地をこねているときは、何だか紙粘土をいじっているような感じで「これが本当にちゃんとしたパンになるのか？」と思っていたので、正直、焼きあがったパンの見た目と味に驚かされた。娘にとっても自分で作ったパンは格別のようなものである。とても美味しかったので、冷めるのを待たず二人で幾つも食べてしまった。予定より大分数が減ってしまったが、残りのパンは冷ました後、チョコレートのペンで目と口を書いて完成させることにした。ところが、あいにくチョコレートのペンの買い置きが切れているとのこと。仕方が無いので、チョコレートの代わりに箸の先に黒胡麻ペーストを付け、それ

で書いた。目は干し葡萄。パン自体の形もイマイチだったので、出来上がりは当初考えていたものとは似ても似つかぬ変な顔になった。まるでこぶ取り爺さんみたいだ。もう一つもカマキリみたいな変な顔。せつかくのパンなのにこれじゃあ、とも思ったが、美味しいから形なんてどうでもいいか、と勝手に納得した。そこは娘も同じ心境らしく、私が顔を書き終わる前に次々と手を出して、「もう一個たべていい?」「あと、もう一個だけ、だめ?」結局、ほとんどのパンを食べてしまった。形なんてあまり気にしていないらしい。しかし、子どもとは思えない食欲だ。

今回は簡単なパンを作ってみたが、トッピングなどを工夫すれば色々とバリエーションが広がるので、雨の休日など家にいる日にはぜひまたやってみたい。

子どもをどこかに連れて行って特別な体験をさせるのも楽しいが、日常生活の中で楽しみを見つけ一緒に体験していくことも大切だし、思い出に残ることだろう。普段あまり娘と接する時間がないので、休日にはなるべくこういう機会を作りたいと願うばかりである。子どもはすぐに大きくなって、父親の相手をしてくれなくなるだろうから。





ナイアガラを訪れて

岩 田 啓 (稲門弁理士クラブ)

1. はじめに

今年（2008年）の夏、米国での研修の合間の連休を使って、研修で出会った方々と数人で、米国とカナダとの国境にあるナイアガラの滝を訪れました。そこでの体験と、そこで感じたことを述べさせていただきます。

2. ナイアガラの滝 (Niagara Falls)

ビクトリアの滝やイグアスの滝と同様、世界の三大瀑布の1つに数えられる「ナイアガラの滝」。誰もが名前を聞いたことがある有名な滝ですが、私は実際に行くことになるまで、どのようなものか詳しくは知りませんでした。

ナイアガラの滝は、北米の五大湖のうち、エリー湖からオンタリオ湖までを南から北へと結ぶナイアガラ川の途中にあります。川の途中にある30m～55mもの段差によって、流れる水が大きく落下し、滝となります。

私は当初、ナイアガラの滝というのは1つの大きな滝の呼称かと思っていました。しかし実際は、ナイアガラにある代表的な2つの滝を含んだ複数の滝の総称です。2つの滝は、写真のようにカナダ側から見た場合、左側に位置するのがアメリカ滝と呼ばれ、右側に位置するのがカナダ滝と呼ばれます。国境を挟んでどちらの国側にあるかで、呼び名が決まっているようです。

ナイアガラ川は、アメリカとカナダの国境にもなっており、滝のある場所で川が折れ曲がっています。このため、ナイアガラの滝をアメリカ側から観た景色とカナダ側から観た景色はかなり異なります。どちら側の景色が人気があるかといえば、やはりカナダ側からの景色でしょうか。アメリカ側からカナダ側に水が落下する形となっているため、カナダ側

から観ると、ナイアガラの滝の全景を正面から観ることができるからです。

一方、アメリカ側からはどちらの滝の滝口（たきぐち：滝が流れ落ちるところ）にも近寄ることができるため、より滝の迫力が味わえます。滝の上から幅200mを越える川の水がいっせいに落下していく様子は、実に壮観なものです。



(カナダ側から見たナイアガラの滝。左側がアメリカ滝で右側がカナダ滝です。国境はカナダ滝の中心を通っています。)

3. 施設やアトラクション

滝の周辺には、ナイアガラの滝を楽しむための建物や数多くのアトラクションがあります。そのほんの一部ですが、私が行ったところを紹介させていただきます。

<スカイロン・タワー (Skylon Tower)>

カナダ側にある最も大きなタワーで、高さは159m。串の上に刺さったようにそびえる円盤状の展望台は、ナイアガラの周辺にある施設の中で最も高い建造物です。展望台からは周辺の様子を360°見渡すことができ、ナイアガラの滝と、その周辺のナイア

ガラの街を一望することができます。

展望台に登ることで、地上から見るのとは異なる景色も楽しめました。夕日がナイアガラ街の地平線に沈んでいく様子や、ナイアガラの街の夜景、そして七色にライトアップされたナイアガラの滝。特に、ライトアップされた滝は、昼のたくましい様子とは一転し、静かで不思議な魅力をかもし出していました。

また、展望台からは打ち上げ花火を観ることができました。球状に開く打ち上げ花火は、日本で観るのと同じように円形に見えます。ただ、展望台の高さは花火が開く高さよりも高いため、上から見下ろすように打ち上げ花火を観ることになりました。このため、街の夜景やナイアガラのライトアップの穏やかな光と花火の華やかな光とが重なって、独特で神秘的な光景を見ることができました。



(高さ159mのスカイロンタワー。ナイアガラの街を一望することができます。)

<霧の乙女号 (Maid of the Mist Boat)>

霧の乙女号は、ナイアガラの滝では最もポピュラーなアトラクションです。定員600名の2階建て大型ボートが、滝の近くまで連れて行ってくれます。

このアトラクションではボートに乗る前に青色の雨合羽が渡されます。カメラは水に濡れるということで防水加工を施したもののみが推奨されていました。私は防水加工のないデジカメしか持っていない

んでしたが、なんとか滝の臨場感を記録に残したいと思い、デジカメをビニール袋で覆って、滝に臨むことにしました。

ボートは最初、アメリカ滝のそばを通ります。アメリカ滝は、直線状に切り立った崖から水が整然と流れ落ちていて、とても見栄えがいい滝です。アメリカ滝の下は岩場になっているため、ボートではそばに寄せられません。このため、滝からかかる水しぶきも、霧雨がかかった程度の弱さでした。

船はしばらく滝から離れ、おびただしい数のカメラが水上で休息している場所に差し掛かります。その数は優に100羽は超えると思います。あまりのカメラの多さに気を取られていると、突然、周りで歓声か悲鳴かわからない声が沸き起こりました。それとほぼ同時に、大きな水滴が斜め上方から激しく襲ってきました。ボートがカナダ滝の水しぶきの中に差し掛かったのです。水しぶきの勢いで雨合羽のフード部分が目を覆ってしまい、前が全く見えません。両手がカメラとビニールを抑える手で塞がれているので、目を覆っているフードを直すこともできません。こうなったら、被写体が見えなくても撮るしかないと思って、シャッターをやみくもに切りました。しばらくして水しぶきと喧騒が収まり、写真を確認してみたところ、案の定、空やらボートの床やら川面やら、滝と関係のないものばかりが写っており、滝の臨場感は全く記録できていませんでした。

カナダ側からナイアガラの滝を見ると、カナダ滝はアメリカ滝よりもかなり遠くにあるために、カナダ滝は小さく見えてしまいます。しかし後で調べてみると、カナダ滝はアメリカ滝よりも水面からの高さも高く、10倍の水量が流れているようです。すっかりナイアガラの滝の規模の大きさに目を狂わされてしまいました。もう少し事前に滝の状況を調べて、カナダ滝の勢いを心得ていたら、臨場感が伝わるようなカナダ滝の写真が撮れていたかもしれません。

<ジャーニー・ビハインド・ザ・フォールズ (Journey Behind the Falls)>

滝の正面を見たら、次は横、そして裏を見よう！…という発想かどうかはわかりませんが、このアト

ラクシオンはカナダ滝の裏に掘ったトンネルを通過して、カナダ滝の真横や、カナダ滝の壁側つまり裏から見る事ができるアトラクションです。

黄色の雨合羽を渡されトンネルを抜けると、カナダ滝の真横に出ます。滝の近くの水しぶきは大粒で、風にあおられて岩場にも降りかかってきます。夏場の水は気持ちよく、シャワーのように降りかかる水しぶきを浴びて、子供のようにしゃぐ大人の観光客が印象的でした。その後トンネルに再び入って、トンネルの穴越しに裏から滝を見ることができました。裏から滝を見たことはなかったので、新鮮な気分でした。

4. ナイアガラの街並み

ナイアガラの滝はそれ自身魅力のあるものですが、滝の周りの様子や街並みも明るく清潔感があり、とても魅力的です。

ナイアガラ川に沿って作られた遊歩道に並んでいく芝生は綺麗に長さが整えられていて、その上をリスが飛び跳ねています。芝生には、ところどころに花で作った文字や模様が施され、明るく華やかな色の花をつけた木々が整然と植えられています。遊歩道の上には、たくさんの数のカモメが、思い思いの方向に気持ちよさそうに飛びまわっています。そんな穏やかで明るい遊歩道を歩いていると、実にゆったりとした平和な時間を過ごすことができます。

一方、自然にたくさん触れることができ日常と異なるとはいえ、観光地としてもとても発展していて便利です。遊歩道を外れてナイアガラの街に入ると、お土産屋さんと一緒に、様々なチェーンのレストランやファーストフード店が立ち並んでいます。非日常の中にも日常生活に必要なものは取り入れられているため、不便は感じません。また、映画館、ボーリング場など、日本の街中でもよく見られる娯楽施設も豊富にあり、楽しめます。

ナイアガラの街を歩いていて特に感じたのは、その雰囲気よさです。雰囲気よさは、道路や建物や設備が新しく、空間的にもゆとりがあることに加

え、店員の対応のよさからも感じました。ゆったりとした環境で過ごしているが故の穏やかな対応や無理のない店員の笑顔に、とても心が和まされました。そして店員のこういう対応が、ナイアガラの雰囲気を一層良いものになっているように思いました。

5. おわりに

ナイアガラを訪れて、ナイアガラの滝の素晴らしさを堪能できたことは、とても貴重な経験になりました。しかし、それ以上に貴重な経験となったのは、ナイアガラの滝という素材を基に、アトラクション等を通じて街の雰囲気を盛り上げ、その結果、ナイアガラの街が活気付いている様子を体験できたことです。

ナイアガラが観光名所となっているのは、当然、ナイアガラの滝という素晴らしい素材があることが一因です。しかし、活き活きとした街並みや楽しいアトラクションを実際に経験して、観光名所となった最大の要因が、素材の良さだけに起因するものでなく、素材の良さを伝えた、ナイアガラの街で観光業を営む人々に起因するものだと感じました。つまり、素材の良さがどこにあるかを吟味し、素材の良さを観光客に上手に伝えることで、積極的に素材の良さを享受しようと観光客の気持ちを動かすことに成功した、街の人々のそれらの努力に、最大の要因があるように感じました。

ナイアガラの街で観光業を営む人々にとっての素材がナイアガラの滝なら、私にとっての素材は、知的財産になると思います。そして、ナイアガラの人々がナイアガラの滝を元にナイアガラの街を活性化させたように、私も、知的財産という素材を元に知的財産業界を活性化させる一助となれば、素晴らしいことだと思いました。

私も今後、知的財産の良さを利用者に伝えるため、知的財産という素材の可能性や現状を把握するように努めようと思います。また、知的財産の良さを十分に伝えられるように、表現力を培っていければと思います。

キャンプ

高橋 大典 (南甲弁理士クラブ)

数年前から、春から秋にかけて、キャンプに行くようになった。息子の同級生の一家に誘われたのがきっかけだ。その親父は私のキャンプの師匠となっている。

キャンプ地は、いわゆるキャンプ場ではなく、電気、水道、トイレもない、ただの山の中の空き地です。風呂？あるわけない。携帯？つながりません。中央高速を甲府南で降り、走る約1時間、途中に「落石注意！」の標識を見つ、早川の支流の上流に向かって、一応舗装された林道から、未舗装のがたごと道を分け入った所がお気に入り。

ところで、「落石注意！」の標識って、ナニ？ドウスレバイインダ？？駐停車禁止の標識にであったら、駐停車しなければいいだろ。動物注意の標識は、横からの動物の飛び出しを注意して、一応横にも気を使いつつ、スピードは控えめに運転すればいいんじゃないかな。人間の飛び出しと変わらないだろ。けどさ、落石注意って、上を見て走るのか？スピードは控えめか？でもゆっくり走ってたら落ちてくる確率が高くなるよな。それとも危険地帯だから早く通り過ぎるためにスピードアップか？とか独り言を言いつつのんびり走る。

でも、到着寸前の未舗装の道は、のんびりなんかしてられない。手に汗握る奥の細道。道は細くてでこぼこで、アップダウンも激しくて、落石ごろごろ、片側は崖、とってもスリルある道なのです。そんなジェットコースターのような道で事件は起きたのです。去年の春の帰り道、まんまと落石にやられました。上から落ちてきたのではなく、すでに落ちていた石に。「何だ、運転が下手なだけか。」という

なかれ。きつと崖かなにかに気をとられていたのでしょう。ゴン！だかガン！だかいう音と衝撃の後、ボーだかゴーだかいった得体の知れない音が発生。しかも急なのぼりでアクセルべたふみ状態では、ゴワーとかいった心臓が凍るような音に進化する。もう、半べそ。止まって見てもしょうがないから、というより止まってそのまま動かなくなるのが怖いから、一寸でもまともな道目指してとりあえず前進。無事帰宅。後にマフラーの継ぎ目がずれていたことが判明。てなこともありました。

奥の細道通り抜け、やっとキャンプ地に到着。大体夕方に到着するので、休むまもなく、先ずテント張り。我が家は家族が多いので、テントもでかい。けど、こここのところ慣れてきて手際よくはれる。初めてテントを張ったときは、1時間ぐらいかかったのに進歩したな一とか思いながら独りで張る。子供たちはまず手伝わない。どっかに消えている。ちなみに妻には手伝わせない。ようにしている。「男が何でもやる」が師匠とのキャンプの定めなのだ。

次に必要なのは水汲みだ。これは子供たちにやらせる。「水汲んでこーい」の号令に、夫々ペットボトルやら鍋やらをもって、すぐ近くを流れる、支流の支流から汲んで来て、大きなポリタンクに貯めていく。何回も往復してポリタンクが一杯になるまでやる。

お次は、焚き火の用意だ。もちろん子供たちがやる。けどこれは言われなくても率先してやる。焚き付け用の杉の葉やら、薪になる木を集めてくる。長男は焚き火が大好き。「好きこそ物の上手なれ」の諺どおり、焚き火のエキスパートになっている。薪を組んで、マッチ1本でアツという間に焚き火の出来

上がりってかんじである。

その横では男たちが宴の用意。といっても簡単料理。ランタン灯して、ホワイトガソリンのバーナーと、ちっちゃなバーベキューコンロで、ビールを片手にちゃっちゃか作る。

ある夜の料理。

豚肉とにらの汁物。だしは関西風うどんだし。

手羽と軟骨の炭火焼。

用意してきた、ささみのたたき。

磯辺もち。

最後に汁物にうどんをぶち込む。

ご馳走様。

後は子供たちを寝かせてゆっくり飲む。ひたすら飲む。星がきれいだが、春や秋の夜は結構寒い。フリースの帽子、ベンチコートは必需品。ま、外で飲んでるんだから寒いのが当たり前。この凜とした寒さを味わうのも、キャンプの楽しみ。で、雪中キャンプも計画中。

実は、夜はちょっぴり怖い。ランタンが消えると闇である。頼りはヘッドライト一つ。いろんな生き物の気配を感じる。

狸：まいいか。食べ残しをそのままにしておくと思われるだけ。特に害なし。

猿：寝てる。と思う。

鹿：ケーンて鳴いてるだけ。

熊：見たことないけど、いるでしょう。だって、近くに、ドラム缶を使った熊のわながあるもん。昼間でも怖いけど。

野犬：会うとかなり怖い。子供のしっこでテントを出たら出くわした。それも3匹。テントのまん前でしっこをさせて、早々にテントに逃げ込む。なかなか寝付けない。猟犬が迷子になって野犬になったらしい。

ま、酔っ払ってるので、寝てしまう。寝たほうが怖くないし・・・。

朝は早い。私にとっては早い。6時前には起きて、

いや子供達に起こされて、朝食の用意だ。

ある朝のメニュー。

ホットケーキ。子供用。

白米。鍋で炊く。

豚、にら、もやし炒め。子供用。

豚キムチ。

味噌汁

統一感がないのは重々承知だが、これでいいのだ。

もちろん、ビール片手に作って食べる。50mぐらい離れた木の上では、猿も朝食。

食後にやることは唯一つ。昼寝！といきたいところだが・・・。まずは、寝袋やテントを干す。これをやらないと帰ってから大変。だし、場合によっちゃえらい目にあう。去年の秋にキャンプに行って、夕刻の薄暗い中、テントを張っていたらなんかかび臭い。ヘッドライトで見ると、なんか黒い点々がテント一面に。ナンダコリヤ？！なんとカビが生えているではあーりませんか。アア、やっちまった。前回ぬれたまま片付けて、家でも干さずにそのままにしてたっけ。てなことでかび臭いテントで一泊。帰って買い換えました。トホホ・・・。

昼間の過ごし方はいろいろ。

バームクーヘン作り。そこらへんから切ってきた竹の節の部分削って、凹凸をなくし、孔空けて、ホットケーキのもとをぬりぬり、焚き火の上でくるくる。まくろけっけのバームクーヘン出来上がり。

ピザも作ってみました。小麦粉こねて生地作り、ぺんぺん手で伸ばしたら、チーズとスライストマトを乗けて準備完了。生地はなぜかマーブル模様。気のせいかな子供達の手が綺麗になっている。ま、いいか。で、焚き火で焼いたら真っ黒け。2枚目からはバーナー弱火で焼きました。美味！

暑ければ溪流で水遊び。でも、長くは入っていません。なんせ冷たい。というか、痛い。

流しそうめんだって楽しいよ。そこらへんから切ってきた竹をなたで真っ二つ。節を石でたたいて壊し、ナイフで仕上げる。別の竹でおわんと箸をのこぎり、なた、ナイフを使って作る。もちろん子供

達が。樋状の竹を組み合わせて溪流から岸边にそして溪流に渡す。竹に冷たい水が流れます。後は茹でたそうめんを流すだけ。取れなかったそうめんは、さっきまで飛蝗をつかまえた虫網で受け止める。もったいないから食べる。

ちょこっと車で移動すれば、30分程度で山頂につく簡単な登山コースもあって、気分爽快。もちろん富士山もばっちりです。

うどんも作った。これは性格でます。人生のパートナーにと考えてる相手がいたら、一度うどんを打たせてみることをお勧めします。美味しいうどんは茹でているときにわかります。でも、美味しいうどんを打つ人が、最高のパートナーとは必ずしもいえませんのであしからず。

秋には胡桃採り。胡桃といえばあの硬い殻をイメージしますよね？では問題です。胡桃ってどんなふうになっているか知ってますか？答え。銀杏のように実に包まれている。そんなの知っている！私はたった2年前に知りました。この実がぶよぶよになって木から落ちているのを拾い集め、溪流でジャブジャブ揉んであの殻の状態が出来上がり。後は石で割って食べるだけ。

次回はやまいも掘りを計画中。

大体、一泊で引き上げます。帰りには日帰り温泉に寄ってくるのが定番です。2日ぶりのお風呂は、風呂嫌いの私でもとても気持ちが良いものです。高速に乗る前にコンビニによって渋滞用の食料補給。大体渋滞に巻き込まれ、懲りないねー、疲れたねー、でも楽しかったねーとかいって帰宅する。すぐ片付けにはいりつつ、次はいつ行こうかなー、いついけるかなーと考え始めているのです。本当に楽しいんだな、これが。

今後の予定というか、目標？いや夢？

その1：カヌーにキャンプ用具一式積んで、四万十川をゆるりと下る。

その2：新そばの季節に、車にキャンプ用具一式積んで、東北地方そば食いつくしの旅。

その3：キャンプ用具一式かついで、熊野を歩く。

その4：キャンプ用具一式かついで、冬、知床をスキーで歩く。

考えてるだけでもワクワクしてきた。次、いつ行こうかなー。



ネコのいる生活～吾輩編～

須藤 浩（南甲弁理士クラブ）

吾輩はネコである。須藤ちび太。オス7歳。兄妹分の凛凛と須藤家に来てから早4年。趣味は昼寝、好物はかつおぶしである。

今日は日曜。このところ土日になると、主人が何やら葛藤している。細君は「早く行ってきなさいよ」と言うが主人は「ううむ」と言うばかりである。見ると主人の髪は日を追うごとにふさふさと長くなっていく。吾輩のような繊細な直毛と違って、主人の髪の毛はパーマをかけたわけでもないのにうねうねと波打っている。これが朝の寝起きともなるとこんもりと逆立って、さながら雷が落ちたかのようである。

主人が葛藤しているのは「床屋」なところに行くかどうかということらしい。ネコと違って人間の髪は放っておくと際限なく伸びていく。床屋とやらまで足を運んで毛繕いしてもらわねばならぬとは人間とは面倒な生き物である。

空腹で目を覚ました主人は朝食に昨晚の夕食のカレーを食べ、居間のソファで横になった。ひとしきりいびきをかいたあと、再び目を覚ましてまたカレーを食べた。すでに正午は過ぎているが主人はまだ葛藤している様子である。

「今日はずっと家にいるの？」と細君が言うと「いや、仕事に行く」と主人が答えた。日曜なのに仕事とはご苦労なことだ。休日返上で働く主人を吾輩は密かに尊敬している。

仕事に行くと言った主人だが、葛藤はまだまだ続いている。床屋へ行ってから仕事に行くつもりらしいが何分床屋へ足が向かぬ。その結果仕事場にも行けずにいる。とりあえず靴下を履いてやる気を見せる主人であるが細君には気づかれずにいるようだ。

ズボンも履いて出かけるまであと一步の状態になったが、つけっぱなしのテレビでちょうど主人の

好きな二時間ドラマが始まってしまった。主人が見るテレビは大体決まっていて、野球か二時間ドラマか警察密着24時といった番組ばかりだ。日曜の午後は二時間ドラマの再放送が多い魔の時間である。二時間ドラマに興味がない主人の娘二人は退屈そうだが、主人はお構いなしでテレビのリモコンを独占している。買物に出かける細君が「一緒に出ようか？」と声をかけるが「二時間ドラマが始まっちゃったからね、結末を見ないと」と居間に横になったまま腰を上げる気配もない。細君はあきれながら近くのスーパーへ買物に行った。

いつもなら吾輩が昼寝をしているはずの居間のそこここが主人と娘たちに占領されて落ち着いて寝ることも出来ぬ。仕方なく別の部屋で昼寝をしてみたが9月上旬のエアコンのない部屋は暑くてかなわない。しばらく我慢して昼寝をしてみたものの、やはり暑すぎるのでまた居間へ戻る。細君はとっくに買物から帰って台所で夕食の準備をしているが、主人はまだ居間に寝そべっている。二時間ドラマは終わったようだが主人の体勢には変化がない。寝そべっていると伸びた髪が余計もわもわとして小鳥ならば良い棲家になりそうに思われる。

居間に戻ってはみたものの寝心地のよさそうな場所は主人と娘たちに占領されたままである。とりあえず主人の横に寝そべってみる。たまたま主人と同じ格好になってしまったが、あくまでも偶然である。いや4年も飼われると知らず知らずのうちに主人に似てしまうのだろうか。

主人は吾輩が隣で寝そべっていることに気づくとむっくりと起き上がった。ついに決心がついたか、ようやくゆっくり昼寝ができると思っていたら、主人はそばにあったねこじゃらしで吾輩をじゃらしにかかった。年齢7歳ともなるとネコとしてはじいさん

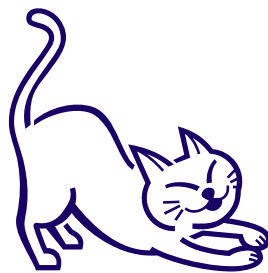
である。ミツバチが先についた釣り竿状のねこじゃらしも、初めこそ珍しくてじゃれてもみたが今は大して興味もない。しかし主人が吾輩の顔の前にミツバチをしつこくくっつけてくるので、よけるついでに少しじゃれてやった。細君がそばを通って主人が吾輩をじゃらしているのをちらと見たが黙って通り過ぎていった。もう主人を急かす気も失せているらしい。

ようやく主人が立ち上がった。今度こそ決心がついたらしい。「床屋に行かずに仕事に行ってくる。」

「仕事はいいから床屋に行ってきたさいよ」と細君が言うが主人はすでに腹を決めたようだ。「髪が伸びて死んだやつなんかいないんだよ。」反論する気も起

きぬ屁理屈である。主人は盛り上がった髪を整髪料でなでつけ小鳥が棲めぬように整えた。陽が傾いた頃、主人はようやく仕事場へ向かった。主人が家を出てすぐ雨が降ってきた。最近連日のように激しい雨が降る。今日も降り出したとたんに土砂降りになった。もう少し早く家を出ていれば降られなかったものを。今日の主人はついていない。

夜遅くに主人が帰ってきた。床屋にはやはり行かなかったようだ。主人の髪はすでに整髪料の能力の域を超えているらしく、先程の雨で湿気を帯びてすっかり小鳥の棲家に戻っている。主人の葛藤は次の日曜も続くようである。





南甲弁理士クラブの海外研修に行ってきました。

水野 祐 啓 (南甲弁理士クラブ)

今年で弁理士になって4年目、所属する南甲弁理士クラブに入会して3年目になります。元々大学の研究会にて勉強し弁理士になった経緯から自然と諸先輩方を見習うように南甲に入会することとなりいろいろと学ばせて頂いております。私の住む名古屋においては南甲東海支部の活動が非常に元気で本年迎えた80周年の記念行事も東京の催しとは別個に家族パーティーやゴルフコンペ等を開催し大変楽しく参加させて頂きました。この周年行事とは別の話ですが今年初めて参加させて頂いたのは南甲海外研修。年1回のペースで海外の制度を学ぶべく今まで上海、北京、バンコク、ハノイ等を訪問してきた歴史ある由緒正しい(?)研修旅行です。いままで何となく参加せずにいたのですが今年は大いに参加をプッシュされたこともあり7月初旬に3泊4日の予定で香港に行って参りました。今回はこの研修旅行をご紹介します。

本年は東京地区から6名、東海地区から5名の全11名の参加者が香港国際空港で待ち合わせ、到着当日から研修を開始いたしました。まず、香港の特許事務所との意見交換会です。まず香港における産業財産権制度のレクチャーを受けました。

ご存じの通り、香港は中国南部に位置する人口700万の大都市でアヘン戦争を契機としたイギリスへの割譲・租借により150有余年1997年に至るまでイギリス領であった特異な地区です。中国返還に際し返還後50年間、自治権の付与と本土と異なる制度の維持が認められているいわゆる一国二制度の下、社会が成り立っています。この一国二制度は知的財産の分野においても例外ではなく、香港には、本土とは異なる独立した特許制度等が存在します。そのため香港での特許等取得には、中国特許庁への手続とは別

途手続が必要となります。また、香港での出願は無審査で中国・英国出願等に従属した形で存在する、保護の期間により標準特許と短期特許という2制度が存在する等、わずかに一都市の特許制度としてはかなり独特なシステムが存在しています。このようなレクチャーのあと質疑応答に入り、香港出願の際の日本の部分意匠出願の優先権の取り扱いなど各自参加者がもつ日々の疑問点などが投げかけられました。

ミーティングのあとは海に面したシーフードレストランで豪華絢爛な中華料理を楽しみ、その後香港島のビクトリア・ピーク(山頂)から「百万ドルの夜景」を見下ろしに行きました。色とりどりに光り輝くネオン。過去の大英帝国の栄光の下に開発され、現在飛ぶ鳥を落とさん勢いで成長を続ける中国がそれを引き継いでいるという中国本土にもない独特の景色・雰囲気はそこにはありました。

翌日の午前中はもう一つ別の特許事務所を訪問しました。この事務所は大規模な事務所香港のビル群の中にありもの凄い景色の会議室の中ミーティングが行われました。この事務所は中国本土の人がメインで本土と香港を行き来しつつ運営されている事務所ということで話は香港に限らず中国にも及びいろいろと広範囲の話聞くことができました。午後は香港の特許庁にあたる香港知識産権署を訪問し行政側の話聞くことができました。知識産権署は香港特別行政政府の商務及経済発展局に属する組織で161人の組織で特許・意匠・商標・著作権を取り扱っています(特許について実体審査業務は行わないためこの規模の組織の大きさということなのでしょう)。ここでは香港制度のみならず先方より日本の制度についての質問も受け活発な意見交換が行われました。ここで気がついたのは役人の人々は香港で

話される広東語ではなく標準語（北京語）を話していたということです。返還後十年程経ちましたが、既に香港は中国本土の一部としてという機能しているという事実を感じ取りました。

その翌日以降は観光でマカオに行ったり香港の夜に繰り出したりと大いに参加者の交流が図られまし

た。11人という参加人数は決して大規模なものではありませんが、参加者の活動地域や年齢層が多様であり皆さんからいろいろと刺激を受けて帰って参りました。ただ単に団体旅行をするのではなく、学べきものが多くあったこの旅行にまたの機会も参加してみたいと思います。



山頂から



真剣に聞き入る面々。



研修中。



香港知識産権署の皆さんと一緒に。



訪問した事務所の会議室から



夜の香港。



「乗 り 鉄」

藤 原 康 高 (PA会)

私(の趣味)は「乗り鉄」です。鉄道趣味には車両、鉄道写真、時刻表などさまざまな分野がありますが、鉄道に乗ることを主たる目的とする分野が「乗り鉄」です。盆帰りの際、地元のローカル私鉄線に久々に乗車してきましたので、車窓の風景と共に、郷里・浜松のご紹介をしたいと思います。

私が高校まで過ごした静岡県浜松市は平成19年4月政令指定都市に移行しました。政令指定都市浜松の誕生を機にあの「ウナギヌ」が「福市長」に就任、浜松市を盛り上げるためのPR活動に活躍中です。

今回「乗り鉄」してきましたのは、新浜松駅(浜松市中区)と西鹿島駅(浜松市天竜区)を結ぶ遠州鉄道西鹿島線(正式名称は鉄道線。営業キロ17.8km)です。



1. 新浜松駅—八幡駅間

12時36分、赤い車体の電車は新浜松駅を出発しました。その車体の色から地元では「あかでん」と呼ばれ親しまれています。新浜松駅から2.64キロの区間は昭和60年に完成した高架の上を電車は進み、車窓の市街地には浜松郵便局、静岡県浜松総合庁舎、静岡文化芸術大学と続きます。左手には徳川家康天

下統一への足がかりとなったことから「出世城」と呼ばれる浜松城の天守閣が確認できます。

ところで「浜松餃子」はご存知ですか？



餃子と言えば宇都宮市が有名ですが、浜松餃子学会の調査発表によれば、実は浜松市が餃子消費量日本一だそうです。円形に焼いてもやしを添えて盛り付けるのが特徴です。

2. 八幡駅—積志駅間

新浜松駅から4分で八幡駅に到着しました。駅に入る手前で左手にヤマハ本社工場が見えます。音楽の授業などでヤマハの楽器に親しまれた経験をお持ちの方も少なくないと思います。

ところで、ヤマハが生産している一番小さな楽器は何だと思われますか？それは「ミニハーモニカ」です。お土産として外国人観光客に人気があるそうです。サイズは37×15×10mmで、小さいながらも1オクターブの音階を吹くことができます。



新浜松駅からの高架区間が終わり、私の乗った「あかでん」は助信駅の手前から地上を走りだし、自動車学校前駅を発車するとすぐに東名高速道路をくぐりました。

3. 積志駅－岩水寺駅間

この区間では、地方都市郊外の典型的な風景が車窓に続きます。線路は三方原台地の東端に沿って敷設されており、左手に続く三方原台地の上には国立浜松医科大学がありますが、線路沿いにまで住宅が建ち始めた結果見えなくなっていました。

さて、突然ですが「どらばーがー」はご存知でしょうか？



餡子が飛び出すほどに詰まったドラ焼きです。積志駅と浜松医科大学の間くらいのところ、この

お菓子を作っているお店があります。マニアの間では周知で、東京の私の職場でもファンが多いです。JR浜松駅のKioskにありますので、ご出張やご旅行の際には是非実物をご確認下さい。

こんなことを思い巡らしているうちに、早くも電車は終点に近づいてきました。

4. 岩水寺駅－西鹿島駅

この辺りは、浜松市に合併される以前は浜北市(現浜北区)・天竜市(現天竜区)でした。緑に囲まれた自然豊かなところで、県立森林公園や浜松市フルーツ・パークなどがあります。全国最高気温を記録するほどに暑い暑い二俣町もこの天竜区にあります。

電車は32分かけ、いよいよ終点・西鹿島駅に到着しました。



今回は郷里の鉄道でしたので一気に終着駅まで乗り通しましたが、初めての路線では気まぐれに途中下車して景色を楽しんだりしています。鉄道はエコな交通機関ですし、なにかと慌しい現代だからこそ休日にのんびりと鉄道に乗ってみるのも楽しいと思います。

ちょっと気軽に「乗り鉄」を楽しまれてはいかがでしょうか。

衝撃的体験

上 西 浩 史 (PA会)

本来、本稿には趣味やマイブームについて書こうと考えていたのですが、2日前に衝撃的な体験をしたので、急遽内容を変更して、そのことについて話したいと思います。

それは本稿執筆3日前のことでした。その日は客先での発明検討会に出席する予定になっており、滞在先のホテルで朝を迎えました。少々汚い話ですが、出かける前にトイレに行ったところ、血便が出てしまいました。このような経験は勿論初めてであり、非常に驚きました。私はすぐにインターネットで自分の症状について確認してみました。血便が出たときに考えられる病気として、大腸炎、潰瘍、そして大腸癌が挙げられていました。色々な情報をネットで調べていくに連れて焦り始めました。正直、「ひょっとしたらこのまま(人生の)エンディングを迎えてしまうのではないか」と感じました。そんな気持ちで客先に出向いたため、発明検討会中も「自分の病気が一体何であるのか」が気になり心配で仕方ありませんでした。

翌日、早速自宅近くの総合病院で診察してもらったところ、腸内出血が起こっていることは確実であるため、後日、内視鏡による精密検査を受けるように告げられました。ただし、精密検査を直ぐに受けることは出来ず、空きを待つのに、最短でも3週間かかるとのことでした。「最近のテレビ番組じゃないんだから、いくらなんでも引っ張りすぎだろお」と

思いつつも、仕方なく3週間待つことにしました。そんな訳で現在、検査日が来るのをひたすら待っている状態です。このような状況に立たされると、つい最悪のケースを考えてしまいがちな性分なので、正直、3週間もの期間中ずっと病名も明らかにされず不安でいる状況に耐えられるかどうか不安です。

思えば、これまで自分の健康を気遣うことが殆どなく、初めて健康管理の重要さを痛感し、今までの健康管理の甘さに激しく反省しております。偏食や運動不足、自分の体に対して悪いことしてきた結果だと重々承知していますが、この状況を何とか脱したいと考えています。

検査結果の如何にかかわらず、私は必ず病気を克服して元の健康状態を取り戻すつもりです。勿論、検査結果が例え大した結果でなくても、今後は健康管理に真剣に取り組みたいです。私は現在31歳ですが、これまで自分の若さに対して度々過信することがありました。特に、食生活はかなりいい加減にしてきたため、21歳から今日までの10年間で体重が略1.5倍になり、ウエスト周りも90cm目前のところまで来てしまいました。自分のためにも、家族のためにも、油断した体型を引き締め、健康に気遣いながら生きていこうと思います。

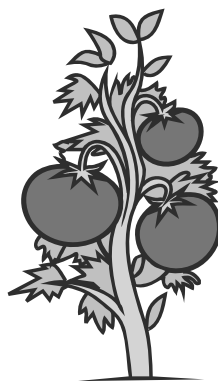
そうは言ってはみたものの、やはり3週間もの間も病名が分からないままにいるのはかなり辛いです。

3週間を何とか上手く乗り切る方法はないものか、今日1日思案してみたものの、結局いい案は浮かびませんでした。仕方なく、悪あがきは止めて大人しく待つことにします。

本稿が会報誌に掲載されている頃、つまり、この記事が読まれる頃には、検査結果も出ていることでしょう。特段大したこともなく今までの健康を取り戻している場合には、私自身、恐らくこの記事を読んで「似合わず重たい内容書いたなあ」と思っていることでしょう。反対に、検査結果が悪く通院（若しくは入院）生活を送っている場合には、この記事

を読んで自分を励ましながら、体調の完全回復に努めていると思います。無論、前者の方であることを祈るばかりですが、、、。

最後になりましたが、今回の件で、自分の心がけ次第で健康にも不健康にもなるという極々当たり前のことを実感しました。これからは、健康フェチと言われるぐらいに、体調管理に取り組んで生きたいと思います。それから、万一、本会報誌で再び記事を書く機会を与えられた場合には、そのときこそ、私のマニアックな趣味について話したいと思います。次回乞うご期待。



軽井沢合宿！？

田 中 勲 (PA会)

最近、軽井沢に行ってきた。大学時代のテニス仲間が所属しているテニスサークル（活動拠点は大阪である）が軽井沢で合宿をするというので、東京にいる私にも声が掛かったのだ。

何となく参加の返事をしたのだが、返事した後不安になった。何人かの学友もその合宿に参加するが、それ以外の参加者とは面識すらない。帰省した際に一度だけ練習会に参加したが、佳代ちゃんなのか、直ちゃんなのか、、女性陣の顔と名前（姓はもちろん分からない）がほとんど一致しないまま当日を迎えた。

私を含めた東京組は朝7時にすぎに東京駅を出発した。渋滞がなければ目的地まで車で3時間程度だが、どうだろうか。案の定、事故渋滞などで1時間弱遅れて最初の目的地、乗馬場に到着した。大阪組は既に馬に乗っている。前日の深夜に出発して一晩寝ていないというから大した体力だと感心しながら、遠目には経験者の2人組が気持ちよさそうに馬を走らせているのを見、近くでは初体験の3人組が馬上で緊張しているのを見て笑っていると、自分が乗る番になった。もちろん乗馬などやったことがない。乗るのは、人間の年齢に換算すると60歳ぐらいになるサラブレッドで、指導員によればのんびりした性格だそうだ。よく見ると、口や目の周りにヒゲが生え、口をモグモグさせている。乗ってみると思ったよりも目線が高くなり、また、体が前後に揺さぶられて姿勢の維持が難しい。自分ではさほど感じていなかったが、ぎこちない笑顔をしているようだ。ギャラリーたちはこちらを見て笑っている。馬は空腹なのだろうか、油断すると隅に生えている雑草を食べに行こうとする。

30分の試乗体験は瞬く間に終わってしまい、やや遅めの昼食を取った後、旧軽井沢に買出し&お土産

買いに向かった。着いてみると、通りはとても混雑している。まるで都内の繁華街のようでのんびりしに来た気がしない。買い物となると男性陣はたいいてい時間を持て余す。何軒かで土産物を見て回るもすぐに飽きて、女性陣が買い物袋をたくさん下げて戻ってくるのを待つだけだ。

漸く買い物が終わって宿泊先のコテージに着くと、夕方6時を回り、辺りは暗くなってきている。夕食は定番のバーベキュー。美味しく感じるのは、ここが軽井沢で周りを自然に囲まれているからだろうか。誰かが高い肉を食べていない人はいるかと訊いている。値段の高い肉は一人二切れだそうだ。その辺りはさすが関西人、しっかりしている。ビールからワインに切り替えたところで、バーベキューはお開きになり、コテージ内で二次会が始まった。ビールに戻ろうとしたら、日本酒を飲めと言う。日本酒は危険だなあと思いつつ、新参者なので断るわけにもいかない。日本酒を開けると今度は缶酎ハイが出てきた。アルコール度数8%もある強いものだ。若干私に絡みぎみの直ちゃんに訊いてみると、このサークルでは酒を飲める人は少ないらしく、たまたま私が少し飲めるクチだったので嬉しかったそうだ。その間、NHKドラマ「篤姫」を見、恋話を聞き、皆でコテージ管理人のおじさんの物真似をして笑い、ラブジェンカなる一種の積み木崩しなどをして過ごしていると、自分がずっとこのサークルにいたかのような居心地の良さを感じた。が、思っていたよりも早く酒量の限界がやってきて、皆にお休みを告げて布団に倒れ込んだ。

目覚めると朝だった。やはり頭が重い、明らかに前日の酒が抜けていないのだ。窓に目をやると、明るい光がカーテン越しに漏れ出ている。予報では曇

りか雨だったが外れたようだ。外に出てみると太陽が空に輝いている。夏はもう終わりというのにこの日差しの強さは何だろう？そんなことを考えながら、コテージの前に広がる芝生の上に大の字に寝転んでみると気持ちがいい。昔、少年時代にやったようにボーっと空を眺めていると、何か良いことがきっとあるに違いない、何の根拠もなくそんな気分になった。

ジョン・レノンが愛したというパン（軽井沢ではこのような食べ物をよく見かける）や、野菜サラダ、目玉焼き、牛乳などをゆっくり取ってから、テニスコートに向かった。屋内のテニスコートらしい。前年の合宿（私は参加していない）では台風に遭って何もできなかったことの反省から、天候に左右されることのない屋内コートを選んだそうだ。ただこの屋内コートの内部が蒸しっていてとても暑い。打ち始めて30分を過ぎたころには汗だくでバテてしまい、室内に置いてあった巨大な扇風機の前から動けなくなった。話は変わるが、この数年、日弁や協同組合のテニス大会に参加させていただいているが、だいたい途中でへばっており、一日の前半と後半とで明らかに動きが違う。。諸先輩はどのように運動不足に対処しておられるのだろうか。

テニスの後は温泉だ。汗も心も洗い流されるようだ。湯上りにビールを飲めれば最高だ。ふと我に戻ればメタボまっしぐらの生活じゃないかとも思うが、今回も不問に付そう。そうして二日目の晩も酒とともに過ぎていった。

最終日、三日目の朝、ゴルフ組は早々にゴルフ場に出掛けていった。ゴルファーは早起きだなあとも思う。私は一度だけゴルフ練習場に行ったことがあるが、真っ直ぐ飛ばせないだけでなく何回も空

振りした。それ以来ゴルフクラブを握っていない。私を含む、ゴルフ組以外のグループは、朝をのんびりと過ごした。女性陣は2、3人を除いて遅出らしい。私は、久方ぶりにフライパンとフライ返しを握り締め、油も塩もないなか、卵焼きにトライした。弁理士になる前に1年弱無職だった時期があり、そのときには（止む無く）親兄弟のために日々食事を作っていたので、昔取った杵柄といったところだろうか、少なくとも見た目は卵焼きらしい形に出来上がった。ただし味はほとんどない。

朝食後、後片付けを済ませてコテージを後にして、とある池のほつりを散策した。鴨や、明らかにメタボな鯉などを眺めつつ、ひんやりとして爽やかな雰囲気を楽しんだ。軽井沢に来たぞ、という気持ちが改めて沸いてきた。

イタリアンレストランで美味しいパスタやピザを食べた後、旧軽井沢にまた買い物だ。女性は買い物好きだなあと半ば呆れながら通りをぶらぶらしていたが、連れられて雑貨屋に入ってみると、様々なアクセサリが飾ってある。ガラスのネックレスやピアス、指輪など、キレイなもので見ていて飽きない。あるいは、女性がアクセサリを熱心に選んでいる光景を見ていたいだけかもしれないが。

そうしているうちにゴルフ組が合流し、大阪組が帰路に付く時間になった。私以外の東京組は二日目に帰ってしまったので、私は一人で新幹線に乗る。軽井沢で大阪組を見送り、再会を約束する。思えば2回しか会っていないのにすっかり馴染んだ気がする。仕事関係や同業者以外で新たな仲間が出来た、また、久しく会っていなかった仲間と再会できた、とてもステキな3日間でした。

おわり





「弁理士4年目の頭の中は、こんな感じ」

根本 雅 成 (PA会)

平成16年の弁理士試験合格以前から日経新聞は読んでいたが、合格後は試験勉強から開放された分、日経新聞を読む時間が長くなった。日経にはお堅いイメージが付き物だが、近鉄バッファローズの身売りをスクープしたり、空席が目立つ東京ドームでの巨人戦の観客数が5万人との発表に対し、東京ドームを管轄する消防署にある東京ドームの設計図から4万数千人分の席しかない事実を掴んで、プロ野球が正しい情報を開示していないことを指摘し（それ以降、プロ野球の試合ごとの観客数は一人単位で発表されるようになったと記憶している）、また、今日のサンタクロースの話は米国の小説家が書いた物語が基礎となり、外観については、米国のイラストレーターが作ったサンタのイラストをコカコーラ社が冬季の販促に使用して定着したというのが有力といった、夢も希望もないような記事にいたるまで、読み物としても結構いける。「読みやすくするため」と巧みな言い方をして、お値段そのまま記事を少なくする実質値上げの他社の新聞と比べて情報量は圧倒的に多く、コストパフォーマンスもよい。

しかし、大きな不満がある。これは日経に限ったことではないが、新聞の休刊日の存在だ。新聞は時代の記録としての役割があり、図書館に行けば新聞の縮小版を誰でも無料で読むことができる。つまり、100年後、200年後の子孫たちも電子図書館に接続すれば、私たちと同じように読むことができるのだから、新聞の読者はすべての子孫も含まれると認識するべきであろう。独禁法で禁止されている再販制度が許されるという特別扱いを受けているのであるから、病院や警察と同様、365日可動して時代の記録として休刊日を作らない体制にすべきだと思う（以上、余計な提案（その1）でした）。

知財重視の流れから、日経にも知財関連の記事が掲載され、本が紹介されることも珍しくない。ブラ

ンドをテーマにしたものは、広告代理店等の分野の方が書かれていることが多いようだ。読んでみると、「ブランドとは、商品やその記号体系を基盤に集団的に共有された記憶のセットであり、意識を固定し、行動や関連性をドライブする魅力の源泉である」（ブランド評価と価値創造、72頁、刈屋武昭著、日本経済新聞社）・・・。法律のアプローチとは全く違う。商標法等では見慣れない単語が並んでいてピンと来ない。一応商標の弁理士なんですけど・・・。あちらの分野では、ブランドは商標法でいう標章に対応する文字等に限定するのではなく、消費者等の意識を含めて把握されるべきもの、と考えているようだ。

人間は思考パターンを持つ性質があり（パブロフの犬でお馴染みの条件反射はその典型だろう）、ブランドを確立するとは、この思考パターン、つまり思考回路を消費者等に形成することといえるのかもしれない。つまり、消費者等は広告や取引を通じて企業と接し、その際に得た印象と接した文字や記号等がセットで記憶され、その文字や記号等を見ると記憶された印象が想起されるようになる。このような思考回路と、その思考回路を起動させる文字や図形等のスイッチからなるものがブランド、とでもいべきか。このようなスイッチのうち、商標法での商標の定義に該当するものが、私たち商標弁理士が扱う商標ということになる。

しかし、例えば音声であっても消費者等に思考回路が形成されていて、そのスイッチとして機能すれば、文字や図形の場合と同様に保護に値する。今日ではインターネットで画像や音声をフルに使い、あるいは、ファッションショー形式で商品を紹介して携帯電話で注文をとるなど、企業はブランドを確立するために広告手法や販促手法を工夫し多様化しており、不競法では他社を真似て周知になった方が保護され、真似された方はアイデアを提供しただけに

なることもあり得るので、商標法で事前に囲いを作っておきたいという要望は当然あるだろう。企業努力に応えるためにも、法上の商標の範囲をもう少し広げてほしいのかもしれない（韓国みたいに）。

ただ、法上の商標の範囲を広げると、識別力の問題や類否の問題が待っている。例えば色彩のみ又は音声の商標が認められた場合の類否判断は、文字商標の場合と同じとは思えないから、判例も裁判例も審決例も存在しない状況では、審査基準にはそれなりの類否判断の例示があっても、明確な論理付けは難しい。そうなると、単に好き勝手なことをいって非類似を主張するだけの、素人みたいな主張になってしまうかもしれない。現在では、複数のサイトで判決や審決が見られるようになっており、検索すれば、自分がどのような趣旨の主張をしたかが分かってしまう。それだけに「自分のため」も含めて、下手な主張はできない。

法律では「説明できるか否か」がすべてといてもよく、たとえば、人の死の認定の際には、瞳孔、肺、心臓の各機能の有無を調べるようであるが、これらの機能に着目するのも生きているとはいえないと説明できるからだと思う。そのため、法律の世界では説明の仕方、すなわち論理展開で実力が測られ、見透かされてしまうだろう。そこで、私たち弁理士が意見を述べるときは、判決や審決で論理付けの手法が確立しているものについては、その手法を用いるのが最も説得力がある説明といえるから、自分たちの正当性を主張するには確立した手法に沿った論理展開を行い、相手の主張を否定する場合は、確立している手法に沿ったものではないと主張できないかを検討することになるだろう。自分に有利に援用できる判決等があるのに自己流の主張をし、「どうして判決等の論理展開をしないのか」と突っ込まれれば、どこかのアイドルではないが、「別に・・・」とかいって逃げ切れるものではなく、かなりの言い訳の上級者？でなければ、「判決等を知らないのでは？」という疑惑を払拭するのは困難だろう。

ただ、意匠の場合は事情が異なる。意匠は判決も審決も絶対数が少ないばかりか、査定系の事案については登録にならない限り公表されないから（負け

た審判は公表されず、勝った審判だけが公表されるという、代理人としては非常にありがたいシステム）、さらにアクセスできる判決等が限られてしまう。加えて、発明は出願時に文書で構成要件を明示するのに対し、意匠は出願時では図面や写真等で特定し、文書で特定していない結果、審査官（審判官）は引用意匠に類似すると説明しやすいように出願意匠の構成要件を表現方法も含めて調整することができる一方、出願人も引用意匠を確認したうえで、非類似と主張しやすいように意匠の構成要件や表現方法を選択して反論できるという、テクニックを発揮できる自由度が比較的広い環境にある。このように意匠の場合は、事案に沿った頼れる判決等がない状態で論理展開しなければならない場合が多い分、よりセンスや論理構成力が要求されるのかもしれない。

ところで、いくら判例等で論理付けが示されていても、類否判断から主観を排除することは難しい。自己紹介で、自分は有名人のXXさんに似ているとか言って周囲を困らせる輩がいるが、これなどは主観に満ちた類否判断（巷では「勘違い」）をしている典型で、類否判断と主観との密接な結び付きを象徴している。会員の方で、似ていそうな二人の顔写真をそれぞれ図形商標として同じ商品に出願し、拒絶査定不服審判や無効審判の審決を引き出して審決取消訴訟にもっていく人、いませんか？知財高裁は人の顔の類否判断手法を示すでしょうから、この手の勘違いの防止に役立つかもしれない（以上、余計な提案（その2）でした）。

このように、法律の世界で論理付けは実力評価の根拠になると思われるが、その結果、次のような懸念と結び付くことを指摘して終わりにしたい。日経新聞では弁理士ランキングを掲載しており、そこには知財部門もある。いずれ弁理士もランキングがなされ、ついでに格付けまでもなされないだろうか。判決や審決の内容は代理人情報と共に公表され、企業からの情報収集も弁理士ランキングで開拓済みであるから、現実味がある。審判等でおかしな主張をすれば、どんな評価をつけられるか分からない。もし「評価C、依頼不適格」なんて評価されて公表されたら訴えて・・・いや、和解にしておこう（弱気）。

「豆知識～医療費自己負担を軽減するために～」

井上 美和子（無名会）

1. はじめに

今年になってから、『メタボ』という言葉であらゆる場面で耳にするようになりました。

「メタボリック」とは「代謝」の意味で、「メタリック・シンドローム」とは、内臓脂肪の蓄積によりインスリンの働きの低下が起こり、糖代謝異常、脂質代謝異常、高血圧などの動脈硬化の危険因子が、一個人に集積している状態を言います。

そもそも、この『メタボ』が今年になって急に重要視され始めた一つのきっかけは、厚生労働省が、2008年度からメタボリック・シンドロームの予防・改善を目的とする新しい健診制度を導入する計画を打ち出し、健康保険組合にメタボ対策を義務付けたことだと思います。これは、将来の医療費負担を抑えたいという狙いがあるようです。

さて、医療費の削減と言えば、私達が一番気になることは、やはり自己負担の部分ではないでしょうか？ サラリーマンの医療費負担は従来2割負担でしたが、平成15年4月1日から3割負担になったことは、まだまだ記憶に新しいことだと思います。更なる自己負担額が引き上げられることも、近い未来、現実になるかもしれません。

ところで、私達は医療機関にかかると、提示された金額を特に疑問も持たず支払っていると思いますが、少しおかしいと思いませんか？ 普通に買い物をする時には、同じ商品を買うにも安いものを選んだり、必要の無いものを買わないように節約に心がけたりするのに、医療費を節約するには、・・・‘少々’の病気は自力で治す’なんて考えてしまうのでしょうか。最近では、テレビなどでジェネリック医薬品（後発医薬品）のCMが頻繁に流されていますので、医療費の節約のためには、先発医薬品をジェネリック医薬品に変更してもらう方法は容易に考え付くかもしれません。

では、これ以外に、何か医療費を節約するいい方法はないのでしょうか？

医療機関に支払う医療費としては、大きく分けて①病院（医院）に支払う医療費、②調剤薬局に支払う医療費、の二つです。このうち、診察や治療を受ける病院では、「この治療は必要ない」「この検査は

必要ない」など、私達が判断することは難しいと思いますので、ここでは、②調剤薬局に支払う医療費を節約する豆知識をお伝えしたいと思います。

2. 調剤薬局で必要な医療費

調剤薬局で必要な医療費は、薬自体の料金に加え、以下の表のように、大きく(1)基本料、(2)調剤料、(3)管理料に分けられます。

基本料	① 調剤基本料1	月4000回以下 集中度70%以下	400円
	調剤基本料2	月4000回超 集中度70%超	180円
	② 後発医薬品調剤体制加算		40円
	③ 基準調剤加算1		100円
	基準調剤加算2		300円
			など
調剤料	内服薬 7日以下	1調剤につき1日分毎	50円
	④ 内服薬 8日～14日	1調剤につき1日分毎	40円
	内服薬 15日～21日	1調剤につき全部で	680円
	内服薬 22日～	1調剤につき全部で	770円
	⑤ 頓服薬	1調剤につき	210円
	⑥ 外用薬	1種類につき	100円
	⑦ 一包装加算	7日分毎	890円
	⑧ 後発医薬品調剤加算	1調剤につき	20円
			など
管理料	⑨ 薬剤服用歴管理指導料	1回につき	300円
	⑩ 薬剤情報提供料	お薬手帳に記入した時のみ	150円
	⑪ 重複投薬・相互作用防止加算 変更あり		200円
	重複投薬・相互作用防止加算 変更なし		100円
	⑫ 後発医薬品情報提供料		100円
			など

(1) 基本料

基本料には、全ての薬局で必要な①調剤基本料、特定の基準を満たす薬局で加算される②後発医薬品調剤体制加算、③基準調剤加算1、④基準調剤加算2、等があります。処方箋を受け付けている薬局なら、どこへ行っても同一の料金と思われがちですが、実は、薬局の条件によって、この基本料が異なっているのです。ちなみに、後述する(2)調剤料、(3)管理料は、原則、同一の処方箋であれば、どこの薬局でも同一の料金です。

① 調剤基本料

調剤基本料は、受け付けられる処方箋の月々の延べ枚数と集中度によって異なります。

処方箋の枚数が月々延べ4000枚を超え、かつ同じ病院（医院）からの集中度が70%を超える薬局は、調剤基本料が400円から180円へと下がります。例えば、大きな大学病院の門前薬局などは、月々の延べ枚数が4000枚を超え、受け付けられる処方箋は、当該大学病院からの処方箋がほとんどだと考えられますので、街中にぼつんとある薬局よりも調剤基本料が安くなっていると考えられます。

これは、病院のそばにある「門前薬局」より、家の近くや職場の近くなどに行きつけの薬局を作ろうという考え方に基づいています。かかりつけ薬局で薬をもらえば、重複した薬や相互作用をチェックでき安全性が向上するからです。

② 後発医薬品調剤体制加算

受け付けている処方箋の30%以上に後発品が含まれている薬局で加算されます。これを加算している薬局かどうかの判断は難しいと思いますが、ジェネリック医薬品の調剤を積極的に行っている旨を、該当保険薬局の内側及び外側の見えやすい場所に提示する義務があるため、そのような提示がある薬局は、加算されると考えられます。

③ 基準調剤加算 1、2

備蓄医薬品の数などの厚生労働大臣が定める施設基準を満たしている薬局で加算されます。基準調剤加算 2 を算定できる薬局の方が、より厳しい施設基準を満たしている必要があります。これも、どの薬局が加算しているかを見分けるのは難しいと思いますが、基準薬局である旨の提示が義務付けられていますので、『基準薬局』との提示がある薬局は、基準調剤加算 1 若しくは 2 の加算が行われると考えて間違いのないでしょう。

<例えば・・・>

調剤基本料が①調剤基本料 1 の薬局で、②後発医薬品調剤体制加算、③基準調剤加算 2 を加算する薬局 A と、調剤基本料が①調剤基本料 2 で、他の加算を一切とらない薬局 B とを比べると、基本料だけで、薬局 A は 740 円、薬局 B は 180 円と、560 円も差が出てしまいます。

(2) 調剤料

調剤料は、原則、同じ処方箋であれば、どの薬局でも同一の額になります。一例を挙げて説明します。

<例えば・・・>

風邪で、以下のお薬が処方されたと仮定します。

- a 解熱鎮痛薬 3錠 毎食後 / 8日分
- b 抗炎症剤 3錠 毎食後 / 8日分
- c 抗生物質 2錠 朝夕食後 / 3日分
- d 咳止め薬 頓服 1錠 / 5回分
- e うがい薬 30mL

a と b は、同一の飲み方のため、1 調剤として算定します。

a、b : 50円 × 7日分 (1 ~ 7日分まで) + 40円 × 1日分 (8日分) = 390円

c : 50円 × 3日分 = 150円

d : 頓服薬のため 210円

e : 外用薬のため 100円 調剤料合計 850円

なお、もし、a、b、c のお薬を、飲みやすくするために一包化すると、+890円

b、c がジェネリック医薬品であった場合、+40円 (20円 × 2 調剤分) となります。

(3) 管理料

⑨ 薬剤服用歴管理指導料

患者様に対し、薬の適切な服用方法を説明し、服用薬剤歴等の履歴を残すなど、適切な業務を行うことを条件に加算されるものです。ほとんどの薬局が加算していると考えても良いでしょう。

ちなみに、理論上は、薬の説明もその服用履歴の管理も必要ない旨を主張すれば、この加算はされないこととなりますが、なかなか言い難いのが現状だと思います。例えば、医師や薬剤師が患者となる場合などは、加算されない場合があります。

⑩ 薬剤情報提供料

保険薬局が調剤を行った薬剤について患者様の求めに応じて調剤日・薬剤の名称・用法・用量・相互作用その他の注意事項などを手帳に記載した場合に加算されます。

そのため、手帳はいらない旨を伝えれば、この加算はされないこととなります。

⑪ 重複投薬・相互作用防止加算

薬剤服用歴を参考に薬剤の重複投薬および薬剤の相互作用の防止のために医療機関へ問い合わせた場合に加算されます。薬剤に変更があった場合には 200 円、変更がない場合でも 100 円加算されます。

⑫ 後発医薬品情報提供料

患者様の同意を得てジェネリック医薬品を調剤し、文書で情報 (先発品との差など) 提供した場合に算定されます。ただし、最初から処方箋にジェネリック医薬品が処方されている時には加算されません。

従って、ジェネリック医薬品を希望する場合には、薬局でお願いするのではなく、処方する医師にお願いすれば、この加算はされないこととなります。

3. おわりに

以上、調剤薬局での医療費及びその削減方法について説明させて頂きましたが、医療費の削減を求めるあまり、適切な情報等の入手ができず、副作用の発見が遅れるなど思わぬ危険を招く場合もありますのでご注意ください。

私にとって印象的であった場所

井上 相一郎 (無名会)

私は、いわゆる後進国と呼ばれる国を旅行するのが好きで、これまでにアフリカのモロッコ、中米のメキシコ、南米のチリ・アルゼンチン・パラグアイなどを旅行しました。リュックサック1つだけを持って旅行する、いわゆるバックパッカーの旅行です。後進国には先進国にはない素朴さがあります。

そこで、これまで旅行してきた中で、私にとって印象的であった場所をいくつかご紹介したいと思います。

1. ティネリール (モロッコ)

モロッコは、アフリカ大陸の北部に位置する国です。そして、アルジェリア、チュニジアとともに、「マグレブ3国」と言われます。「マグレブ」とはアラビア語で「太陽の没する大地」という意味があり、「日出る国」日本とは対照的なところに位置していることを意味しています。

モロッコには、中央部にアトラス山脈、南部にサハラ砂漠があり、このアトラス山脈とサハラ砂漠の間を東西に伸びるカスバ街道という道があります。街道とは行ってもほとんど舗装はされておらず、空気が乾燥しているため周囲は草木がほとんど生えておらず、不毛な大地の中を通る道です。

ティネリールは、このカスバ街道の中間あたりに位置する、いわゆるオアシスの村でした。すり鉢状に窪んだ地形に青々とした畑、その後ろは生い茂るナツメヤシの林、そして土塁の家々、その背後には家々が溶け込むような同色の岩山がそびえ立っていました。丘の上に立って村を眺めると、ナツメヤシの林の間に点在する土塁の家々の風景がとても幻想的であり、お伽話の世界にいるような感動を覚えました。

2. フェズ (モロッコ)

フェズは、モロッコの中央部に位置し、世界でも複雑な迷路の街として有名なフェズの街は9世紀のはじめにモロッコで最初のイスラム王朝の都として栄え、先住のベルベル人、イスラム教徒やアラブ人が住み着き、街が大きくなってきました。旧市街

はユネスコの世界文化遺産に登録されています。

旧市街は、メディナと呼ばれるお城の中に形成されており、このメディナの中に住宅やスークと呼ばれる市場がひしめき合うようにありました。メディアは外敵からの進入を防ぐため、周囲を高い壁で覆われていました。そして、道幅は非常に狭く人と人がすれ違うのがやっとなという感じでした。当然車は入れませんから、荷物の運搬手段はもっぱらロバに頼ることとなり、ロバが来るたびに避けて歩く必要がありました。

日本で言うと、上野のアメ横のような賑やかで生活感があふれるところでした。

3. マラケシュ (モロッコ)

マラケシュは、モロッコの中央部に位置し、11世紀にモロッコを治めていたイスラムの王朝の都で、以後商業都市として繁栄しました。「毎日が祝祭」と言われるほど、エネルギッシュな街でした。

世界遺産に登録されている旧市街の中心には、高さ77メートル、世界最大級のモスク（イスラム教の教会）の塔がそびえていました。その横には、多くの大道芸人や食べ物の屋台で賑わうジャマ・エル・フナ広場がありました。コブラを操る蛇遣い、占い師、水売り、一番人気のアクロバット団、そのほとんどが客からのチップで生計をたてているみたいでした。

広場には、いくつもの人の輪ができ、歓声が響き渡っていました。広場の周りには、スークと呼ばれる迷路の様な市場が続き、鉄製品を作る小さな工房に職人がひしめいていました。さらに旧市街には、伝統の皮なめしの作業場があり、職人たちは、水をはった桶に体半分浸かり、皮を柔らかくする過酷な仕事を続けていました。

マラケシュは、人々の生きるエネルギーが満ちあふれていました。

4. グアナファト (メキシコ)

メキシコは、中米に位置するラテンアメリカの連邦共和制国家で、北にアメリカ合衆国と、南東にグ

アテマラ、ベリーズと国境を接し、西は太平洋、東は大西洋とカリブ海のメキシコ湾に面しています。首都はメキシコシティです。

グアナファトは、首都のメキシコシティの北西、バスで5時間ほどのところにある北部に位置する高地の村でした。メキシコで一番美しいと言われるコロニアル都市で、町全体が世界遺産に指定されています。

このグアナファトは、村内にあるメキシコ独立に貢献したピピラという英雄を讃えた大きな銅像のたつピピラの丘という丘から一望することができました。メキシコはかつてスペインの植民地であったため、町並みはスペイン風に作られており、キリスト教の教会が点在していました。

名所としては、「ミイラ博物館」がありました。その名の通り、ミイラが200体以上展示されている博物館でした。聞くところによると、グアナファトは山間部のため墓地用の用地が少ないため、死体は一定期間だけ村内の小さな墓地に埋めた後掘り起こし、出来のいい物（ミイラ）は「ミイラ博物館」に展示するそうです。

私もミイラ博物館に行きましたが、自分の周囲をミイラに囲まれながらミイラを鑑賞するのは、遊園地の幽霊屋敷よりも怖かったです。

5. マゼラン海峡（チリ）

チリは、南アメリカ南部に位置する共和制国家です。スペインより独立し、東にアルゼンチン、北東にボリビア、北にペルーと隣接しており、西と南は太平洋に面しています。首都はサンチアゴです。

マゼラン海峡は、チリの最南端にあり、南アメリカ大陸南端とフエゴ島との間に位置する太平洋と大西洋を結ぶ海峡でした。ポルトガルの航海者のフェルディナンド・マゼランが大西洋から太平洋に抜けるルートを発見したことにちなんで名付けられています。

チリの最南端にあるプンタアレナスという港町には、このマゼラン海峡を一望できる小さな展望広場がありました。この展望広場からマゼラン海峡を眺めると、地球の地平線が一望できました。広場内の壁にスペイン語で「地球は丸い」と落書きされていたのがとても印象的でした。

6. タティオ間欠泉（チリ）

タティオ間欠泉は、チリの北部のアカタマ砂漠内

の標高4300mの高地にありました。

このタティオ間欠泉へは、近くのサン・ペドロ・デ・アカタマという村からバスツアーで行きました。タティオ間欠泉群はボリビアとの国境地帯に広がっており、朝の4時ぐらいに村を出発して、舗装されていない山道をひたすら走って朝7時ごろ、ようやく間欠泉群に到着しました。

タティオ間欠泉は、雪山に囲まれたエリアに無数の間欠泉が点在していました。朝日の中、のぼる湯気がきれいでした。早朝、辺りが明るくなる頃、無数の穴から一斉に高温の蒸気が噴き出す様子は、自然の力強さを実感させてくれました。

7. ペリトモレノ氷河（アルゼンチン）

南米のアルゼンチン南部のパタゴニア地方にある氷河で、ユネスコの世界遺産にも登録されています。この氷河は、末端部の高さ60m以上、幅5km、全長約35kmの大きさと巨大で、その青い美しい色に本当に驚かされました。展望広場からは、20～30分に1回ほど氷河が湖に崩落する様子を間近に見ることができ、その崩落の音、迫力は相当なものでした。

私は、およそ2時間かけて氷河の上をトレッキングするツアーに参加しました。ツアーの最後にはウイスキーとグラスが用意されており、各自近くの氷河を砕いてグラスに入れ、ウイスキーで乾杯をしました。

8. アスンシオン（パラグアイ）

パラグアイは、南米大陸の中央に位置し、周囲をブラジル、ボリビア、アルゼンチンなどに囲まれる海のない国です。

アスンシオンは、そのパラグアイの首都です。首都とはいえ、アスンシオンは日本の地方都市のような小さな街でした。そして、いわゆる観光地はほとんどなく、この荒らされていない桃源郷のような雰囲気を持っているのが最も魅力的でした。

私は1週間滞在しましたが、のんびりとした街の雰囲気や人を見ながら、ただ公園で昼寝をしたり、読書をしたりとして過ごしました。

9. まとめ

以上、ご紹介した場所は、日本から旅行ツアーが企画されていることも少なく、日本から気軽に行ける場所ではありませんが、機会があれば足を運んでみてはいかがでしょうか。

以上



夏休み子供実験教室

前田伸哉 (無名会)

1. はじめに

8月、我が家では毎年恒例のイベントがあります。長女が産まれる頃に家内が母親学級で知り合ったママさん仲間との家族ぐるみの付き合いが現在も続いており、毎年8月になると、そのママさん仲間の家族で集まって海や山に泊りがけの旅行へ行くのです。今年は、5家族が集まり、総勢20名(うち子供10名)で千葉の九十九里浜(海水浴場)へ賑やかに行ってきました。当日は素晴らしい海水浴日和のもと、地元の青年団が企画して下さったイベントが浜辺で開催されていたこともあり、楽しく1日を過ごすことができました。宿泊先は、浜辺の近くの貸し別荘(以下、「宿」といいます。)です。夕方が近づく頃、浜辺を後にして予約していた宿へと向かいました。

2. 実験教室??

宿に到着すると、親たちは大忙しです。車から荷物を運んだり、バーベキューの支度をしたり、買出しに出たり・・・親の忙しさにはお構いなしに、宿の中では10人の子供たちによる大運動会(!)が開催されており、ワーワーキャーキャー大騒ぎです。そのような中、私は宿の一室で、ある準備を行っていました。

「おーい、実験始めるぞー!」私の掛け声と同時に子供たちが集まり、おとなしくテーブルの周囲に着席しました。先ほどまでの大騒ぎが嘘のようです。

「今日は何をやるのー?」と子供たち。

「何だと思う?」と私。答えながら、用意してきた材料をテーブルに並べて行きます。

実は、毎年恒例の旅行イベントの中で、これまた毎年恒例のイベントがありまして、その一つが私の実験教室(?)なのです。今年で4回目になります。最初の頃は、子供たちが幼稚園児だったこともあり、

赤キャベツ色素を使って色が変わる手品を見せたりしていましたが、今では子供たちも小学2年生や3年生になってきたので、実験の内容も色々考えなくてはなりません。今回は、紫外線をテーマに、2つの実験を企画しました。実験というよりも、子供たちにとっては「不思議な遊び」という感覚なのかもしれません。宿に着いた頃に「今年も実験をやるよ〜」と子供たちに話したところ、「やったー!」という反応が返ってきましたので、今回も楽しみにしてくれていたようです。

3. 色が変わるスライム

1つ目の実験は、「スライム」です。スライムといっても、ゲームに出てくる弱いモンスターではありません。昔、緑色の小さなバケツに入っておもちゃ屋で売られていた、あのネバネバした物体です。これが市販の簡単な薬品を混ぜるだけで作れるのです。ただ、今回はただのスライムではありません。「忍者絵の具」という、普段は白色なのに、紫外線が当たると赤色や紫色などに着色する着色剤を混ぜるのです。忍者絵の具はインターネット通販で株式会社ナリカさん(<http://www.12rikachan.com>)から入手し、スライムの作り方はインターネットのホームページを参考にしました。作り方は次の通りです。

① まず、以下のA液、B液及びC液を用意します。

A液 ホウ砂の飽和水溶液 10mL

B液 洗濯のり(PVA) 50mL

C液 水50mLに忍者絵の具を1mL添加した液
洗濯のりは、のり成分としてPVA(ポリビニルアルコール)を含むものと、CMC(カルボキシメチルセルロース)を含むものが市販されていますが、スライムの原料として使用可能なのは、のり成

分としてPVAを含む方です。のり成分としてとしてCMCを含むものではスライムを作ることができません。今回は、カネヨ石鹼株式会社さんの「カネヨノール」を使用しました。また、ホウ砂は、薬店で入手できます。

② B液とC液とを混ぜて、よくかき混ぜます。今回は、C液に忍者絵の具を使用しましたが、忍者絵の具の代わりに水彩絵の具を使用しても構いません。

③ ②で作った混合液をかき混ぜながら、A液を添加します。すぐにゲル化するので、素早くかき混ぜなければなりません。

④ ③で得られたゲルと、ゲル化しないで残った液体とをビニール袋に入れて全体が均一になるまでよく揉みます。均一になったところで、ビニール袋から取り出して出来上がりです。

子供というのは、こういうネバネバしてひんやりした感触のものが好きなようで、出来上がったスライムの感触をしばらく楽しんでいました。しかし、今回の実験で面白いのはここからです。子供たちには、C液に添加した忍者絵の具が紫外線で着色することをまだ教えていません。したがって、子供たちは、「白いスライムを作った」と考えているわけです。

「みんな、スライムは何色をしている？」と私。

「しろー！」と子供たち。

「じゃあ、ちょっとスライムを持って外に出てみようか」と私。

既に夕方の5時を過ぎた頃でしたが、外はまだ太陽の光で明るく、紫外線も降り注いでいるようでした。外に出ると、子供たちの手の上のスライムが見る見る着色していきます。小学生の子供たちは大はしゃぎで、幼稚園児の子供たちは魔法を見るようにスライムを見つめています。

「みんな、スライムは何色をしている？」と私。

「あかー！」「むらさきー！」「ピンクー！」と子供たち。

「じゃあ、部屋に戻るよー」

部屋に戻ると、スライムはもとの白色に戻ります。ここから解説が始まります。

「今、スライムは外の光に当たって色が付いたんだけど、部屋の中だって明るいよね。どうして部屋の中だと色が着かないんだろ？」と、私はスライムを部屋の蛍光灯に近づけながら聞きました。

「太陽は、光が強いからー！」と小学3年生の男の子。

「なるほどねー、でもこんなに明かりの近くまで持っていっても色は付かないよ」と、さらに蛍光灯にスライムを近づけながら私。○百ワットというような強い光を出すランプを持ってきておけば良かったな、と少し後悔。

「みんな、良く日焼けしているけど、これはプールで太陽に当たったからだよね。家の中で電気の光に当たったときにも日焼けするかなー？」と私。

「しないー」と子供たち。

「これはねー、太陽の光には紫外線っていう光が入っているからなんだよ。みんなのスライムも紫外線に当たって、色が付いたっていうわけ。紫外線っていうのは、家の電気の光には入っていないんだよ。ところで、みんなのお母さんは、日焼けをしないために日焼け止めクリームを塗っているよね。日焼け止めクリームっていうのは、紫外線を通さないようにするクリームなんだよ。だから日焼けしないようになるわけなんだよね。じゃあ、みんなのスライムに日焼け止めクリームを塗ったらどうなると思う？」と私。

「色が付かないと思うー！」と子供たち。

「じゃあ、試してみようか」と私。

4. 日焼け止めクリームの効果

かなり端折りましたが、大体上記のようなやり取りがあって、本日第2の実験である日焼け止めクリームの効果を試す実験をしました。スライムのようなゲルに日焼け止めクリームをうまく塗ることはできないので、第2のアイテム、UVチェックビーズを使用しました。UVチェックビーズは、普段白色をしています。紫外線に当てると着色する直径1cm位のビーズです。このビーズは、先に出てきた忍者絵の具と同じく、インターネット通販で株式会社ナリカさんから入手しました。

子供たちの注目を浴びつつ、2個のUVチェックビーズを取り出し、片方だけに日焼け止めクリームを塗りました。早速外に出て2個のUVチェックビーズを太陽にかざすと、日焼け止めクリームを塗っていない方のビーズはすぐに着色したのに対して、日焼け止めクリームを塗った方はじわじわとゆっくり着色する結果でした。日焼け止めクリームはこういう風に紫外線を通さないようにして日焼けを防いでいるんだよ、と説明して今年の実験は終了したのでした。

5. おわりに

以上、今年の実験もなかなか好評のうちに終わる

ことができました。あるご両親の話によると、帰りの車の中で、「このスライムは太陽に当てると色が付くんだけど、日焼け止めクリームを塗ると色が付かなくなるんだよー」なんて話していた子もいたようです。学生の理数系離れの話などここで論ずるつもりは全くありませんが、目を輝かせて実験に参加していた子供たちの姿を見て、子供たちって本当は理科が大好きなんだよなあ、という思いがしました。

さて、来年はどんな実験をしようかな。だんだんネタ切れになってきて苦しいところですが、子供たちの期待を裏切らないように何とか知恵を絞りたいところです。何か楽しい実験のネタがありましたら、小生までご一報をお願いいたします。





偶 感

本 澤 義 幸 (無名会)

はじめに

会員便りとして、新人会員を取り上げるということでお鉢がまわって来た。業務の話であれば、1も2もなくお断りするのだが、話題は何でもよいというのでお引き受けした。

あれこれ悩んだのだが、そろそろ定年を迎える者として相応の話題とさせて頂いた。

閑居せざるに不善をなす

正式な統計上の団塊の世代には属さないが1年の差に過ぎないので、いわゆる団塊の世代に属する者である。それが今や21世紀に生きている。小学生の頃本当に21世紀まで生き延びられるか大いに心配したものだ。当時は米・ソの原水爆実験が頻繁に行われていた。一方国内ではパラチオンなどの劇薬の農薬が使われていたし、毒性はそれほどでもなかったのだろうが農薬の空中散布も行われていた。パラチオンを散布した田には危険を知らせる赤い三角の旗が列立していたし、空中散布のある日は事前に連絡があった。それに確か空中散布の日は屋外での体育の授業は中止だった。そんな中、何度か通学途上に空中散布の農薬を全身に浴びてそのまま学校に行った。

この頃は核戦争そのものあるいは核戦争による環境破壊で地球が人類の生存に適さなくなる、という考えが主流だった。それが、今では温暖化による環境破壊が人類の未来に大きな黒い陰を投げかけている。今の所、核兵器はそれ相応に管理されているので核戦争は喫緊の問題ではないと期待を込めて考えているが、温暖化はごく普通の人の日常生活そのものが大きくかかわっている。それに核兵器は一旦使

用されればどうなるかは容易に想像がつくが、日常生活による影響は徐々に顕在化するので厄介だ。何より快適さに慣れ過ぎ、当たり前让生活をしているのに過ぎない、という発想が一番怖い。自己の問題という意識が全くないからだ。

時をもって制せらる

多くの弁理士には関係ないかもしれないが、企業勤務者には定年がある。ある年齢を境にして「勤務の義務」から解放されるのだから、ある意味では非常にありがたい制度である。もっとも、否も応もない解雇であるのが実体であるが、誰憚ることなく働かなくても良い、と認められたことには間違いはない。しかし、結構な数の人達にとってそこそこの年齢までは定年が待ち遠しいのであるが、定年後の人生が長くなっている所為か間近になると生活というより生活費のために働かざるを得ないのが現状である。そこで諸先輩方の資格を取っておくと何かとよい、とのご忠告もあり、弁理士資格を取得したが、大量の合格者の輩出により、いわゆる弁理士の本来業務では弁理士として飯が食えるかどうか疑わしいようだ。まして、定年間近の者には、弁理士会でも業務を増やそうと考えてあれこれ方策を練っているようだが、なかなかそれぞれ縄張りがあって難しそうだ。どの業界でも人材は足りないが人手は余っている。それでも色々と余りあてにならないことを考えていると毎日が楽しいが、果たしてどうなるか。

それでも、我々の年代は定年があるが、少子化で働き手が少なくなることは確実に予見できる未来である。そうすると、働ける間は働け、という時代になる。こうなったときには、きっと定年制度が羨ま

しくなるのだろう。それもすぐそこに来ている。

心、固より故園を離れず

団塊の世代は農業に回帰したいと願っている人が多いようである。私はここ3、4年否応なく1年中草取りと落ち葉の焼却に精を出している。ほんの僅かな土地だがそれほど通う訳にはいかないので春、夏、冬の約1週間の休みは貴重な草取りや落ち葉の焼却の日となる。

春はそれほど暑くはないが、5月の日差しは強い。この頃は、まだ草も芽を出したばかりで、取るのは大変だし、取ったつもりでも見逃しが多い。それに今年になってやっと気付いたのだが、春の草取りは腰が痛くなるが、夏はそれほどでもない。どうしてだろうかと考えた結果たどり着いた結論が春は屈みっ放しであるのに対して夏は草の背丈が伸びて取っては捨てに行くという動作が続くので屈みっ放しではないということに過ぎないということである。

夏は暑い。立っているだけでも汗が流れ落ちる。しかし、そういうものだと思っている所為か、あるいは一心に草と格闘している所為か特段暑いとは思わない。それでも草を捨てに行く所は40～50年程度の杉が30本ある程度だがこの日陰が本当に涼しい。それにもと牛舎の庇の下の日陰もここについて涼しい。亡母がクーラなど要らないと言っていたが、古い人間（私もそうだが）のやせ我慢と思って相手にしなかったが、その通りであると実感するこの頃である。今年も8月2日から10日迄草取りをしてきた

のでその様子を写真でお見せすることも考えたが、余りの草で恥ずかしいのでやめることにした。唯、この草取りの良いところは、普段押さえつけてしまう汗をしっかりと出し、ビールを飲むなどというような不届きなことをしないので身体がすっきりすることだ。やはり、夏は暑いのが一番で、しっかりと汗をかくのが一番のようだ。

晩秋から初冬にかけては概して快適である。特にこの頃の夕陽に染められた赤の風景には独特なものがある。この赤い夕陽に手を休めて眺めていると遠い少年だった頃が蘇ってきて妙に懐かしい。私の心象風景と一体となった美しさに他人には単なる夕暮れのひと時に過ぎないのだろう。

年末からは落ち葉の焼却である。私の年を遥かに超える年月を生きて来た木々の次の年に備えて落とす葉の量は計り知れない。そうはいっても都会と違って焼却できるから楽だし、焼却してしまえば、文字通り跡形もないといってよいくらいである。しかし、枯れ切っている落ち葉は燃える勢いが凄く火を付けるのはかなり勇気がいる。童謡の「落ち葉焚き」という言葉からは想像もできない恐怖を感じる。しかし、実際に見た訳ではないが、山火事で生木が次々と燃えていく方が遥かに恐怖を感じるそうだ。

こういふと、大変そうだが、実際は兄が作付けから収穫までやっており、私はほんの僅かな手伝いをしているに過ぎない。

以上

